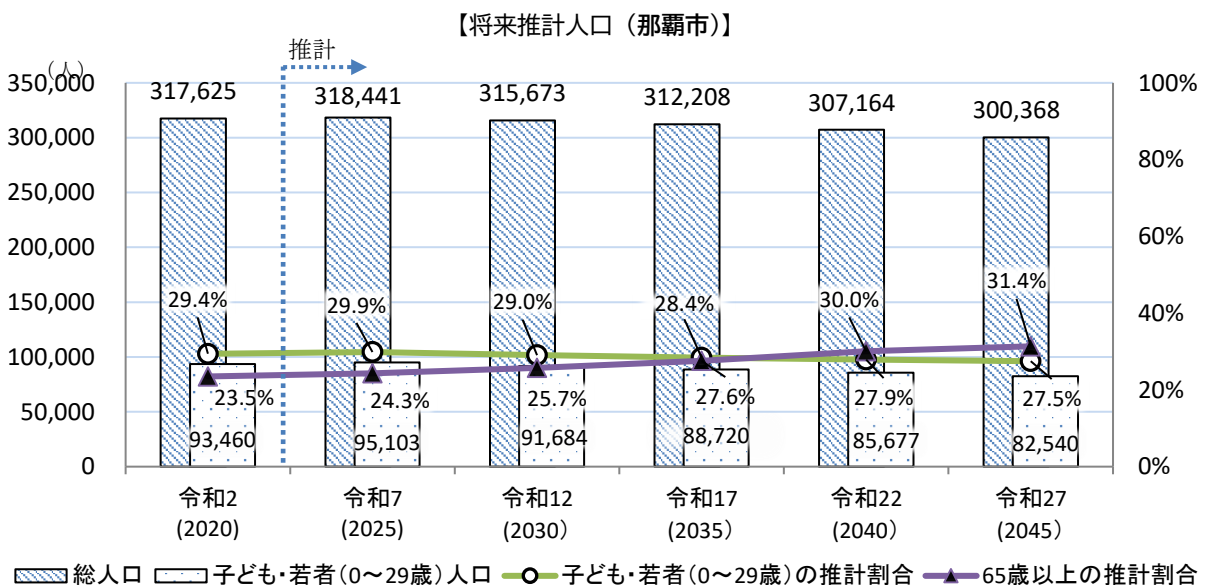
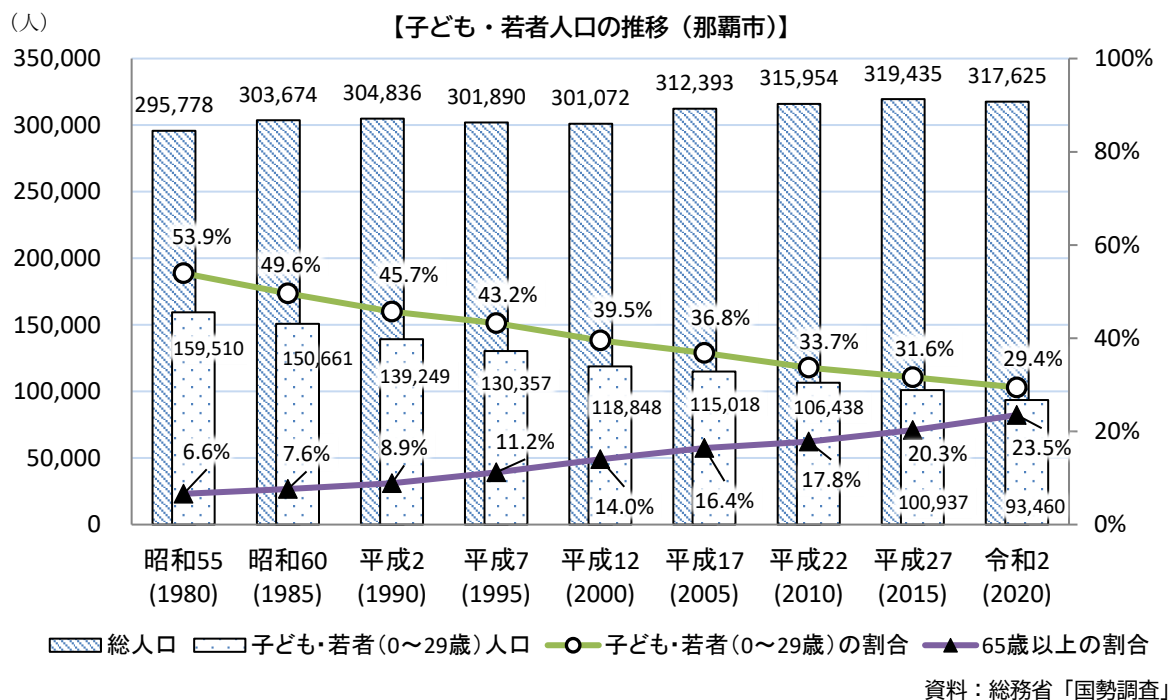


第2章 子ども・若者を取り巻く現状

1 統計からみる現状

(1) 子ども・若者の人口

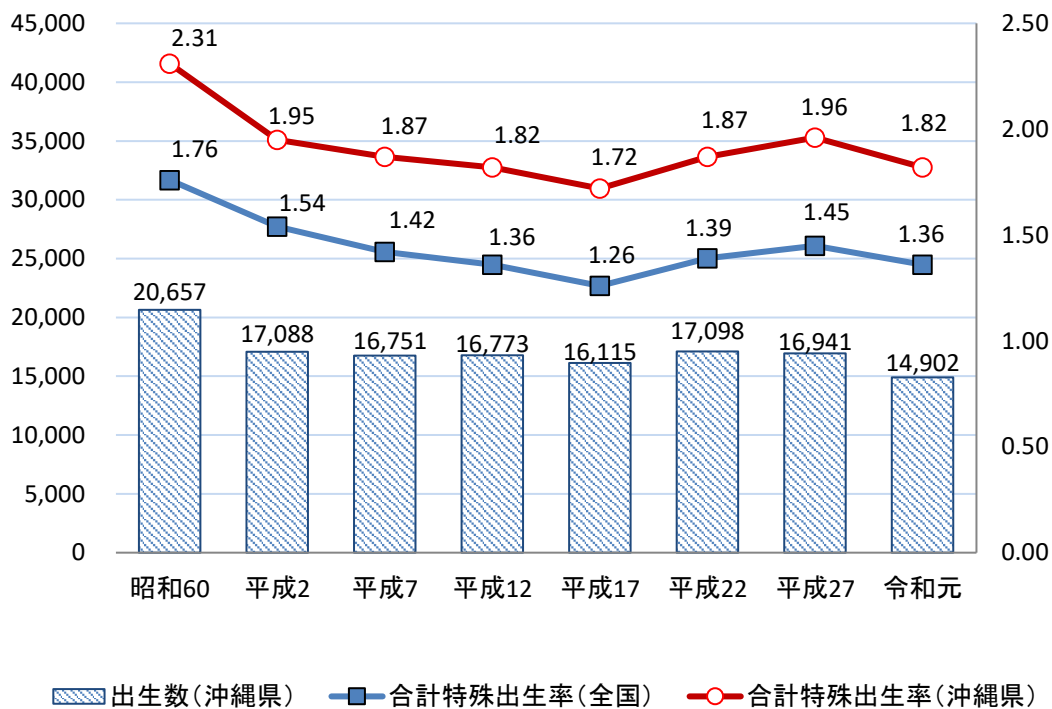
本市の人口は、1985（昭和60）年に30万人を超え、1990年代に一度減少しながらも近年は再度増加傾向にあります。その中で、全人口に占める29歳以下の子ども・若者の人口と割合は減少傾向となっています。将来推計人口では、2020（令和2）年代にピークを迎え、その後は減少することが推計されています。子ども・若者の人口は今後とも減少を続ける一方で65歳以上の人口は増加傾向にあり、少子高齢化がさらに進んでいく見込みです。



（２）合計特殊出生率

沖縄県の合計特殊出生率は、過去最低であった平成１７年の１．７２から平成２７年には１．９６まで改善しています。令和元年ではやや減少しましたが、全国平均の１．３６を大きく上回る全国最高の水準にあります。しかし、現在の人口を維持できる水準とされる２．０７を下回っており、今後人口が減少していくことが予測されます。

【出生数及び合計特殊出生率の推移（全国・沖縄県）】



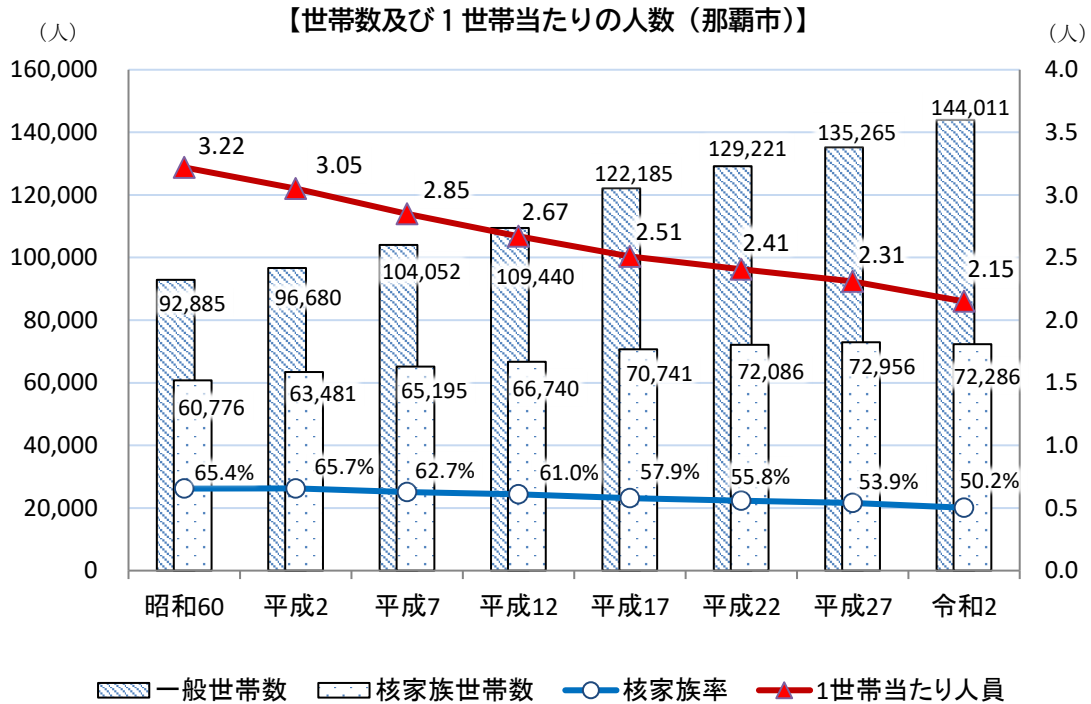
資料：沖縄県福祉保健企画課「令和元年衛生統計年報」

※合計特殊出生率

１５～４９歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値で、「一人の女性が一生の間に産む子どもの数」として人口統計上の指標に用いられる。

(3) 世帯数

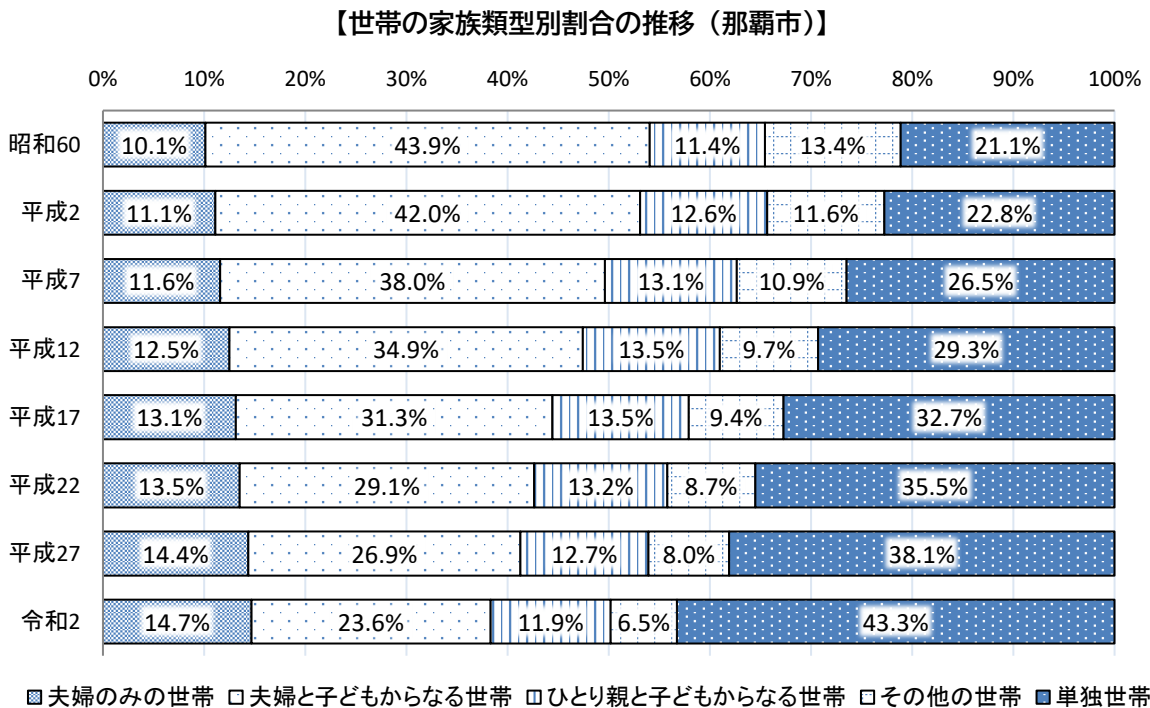
那覇市の世帯数は年々増加していますが、1世帯あたりの世帯人数は令和2年に2.15人と年々減少しています。



資料：総務省「国勢調査」

(4) 家族類型別割合

家族類型別割合の推移を見ると、「夫婦のみの世帯」及び「単独世帯」の割合が上昇し、「夫婦と子どもからなる世帯」の割合は年々低下し続けています。



資料：総務省「国勢調査」

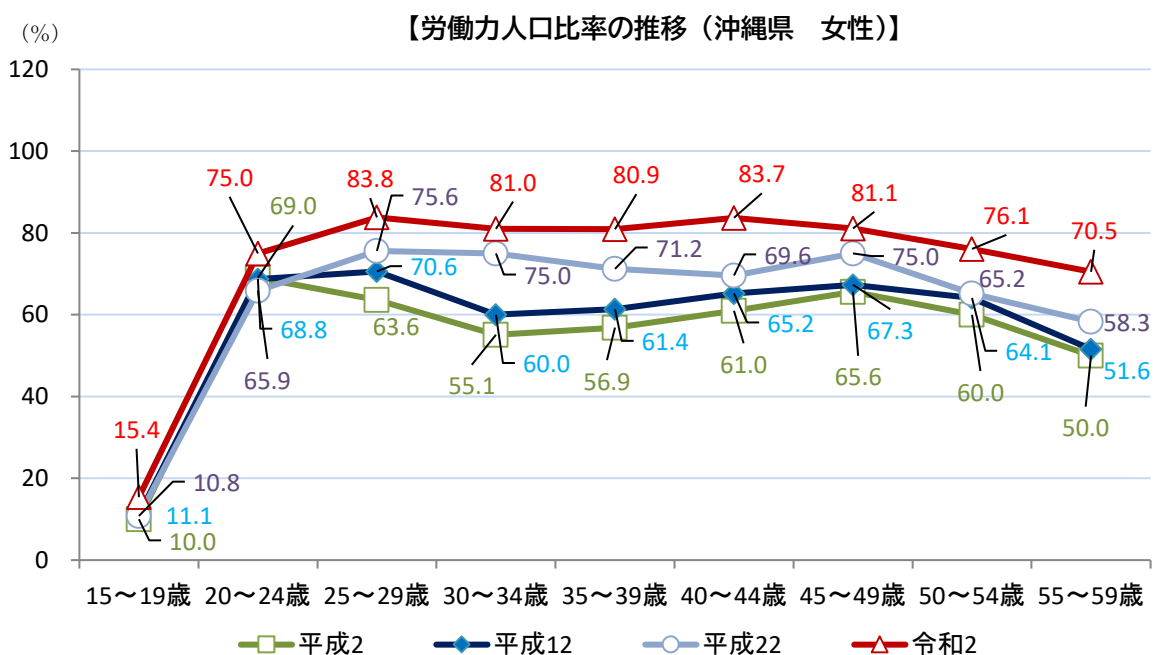
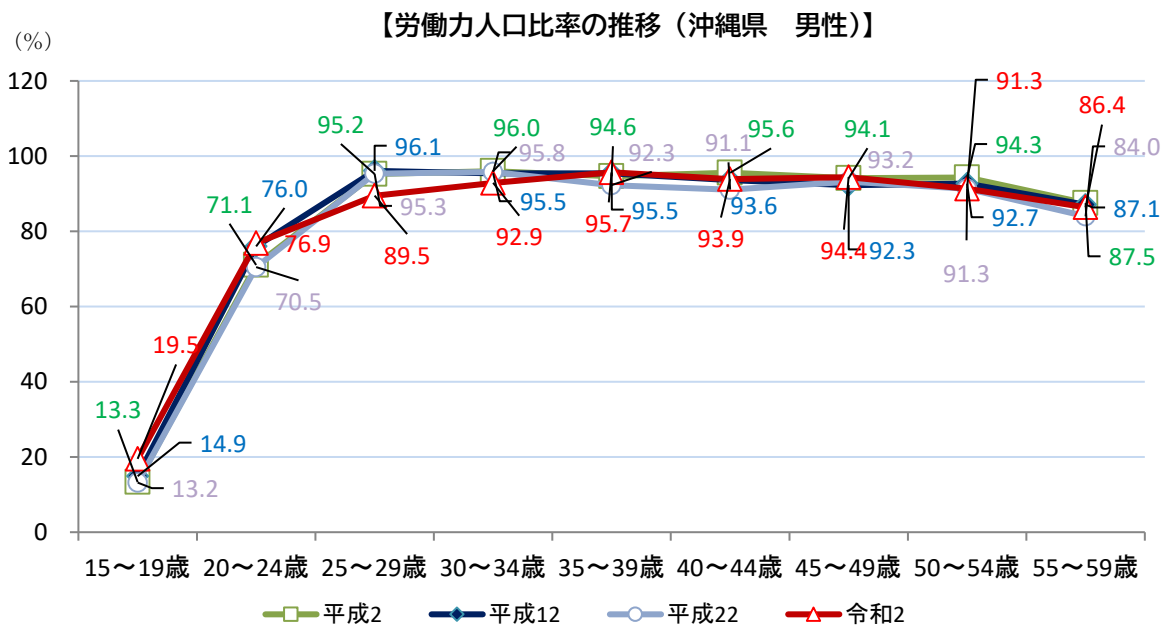
(5) 労働力人口比率

男女別労働力人口比率の推移を見ると、沖縄県の令和2年時点の男性の労働力人口比率は、すべての世代で大幅な増減はなく概ね横ばいとなっています。

女性の労働力人口比率は、すべての世代で平成2年より上昇しており、特に30～34歳、35～39歳の上昇率が大きくなっています。女性が結婚・出産期に当たる年代に一旦職を離れ、育児が落ち着いた時期に再び上昇する、いわゆる女性の労働力人口比率の「M字カーブ」が年々緩やかになっています。

※労働力人口比率：15歳以上の人口に占める「労働力人口」の割合

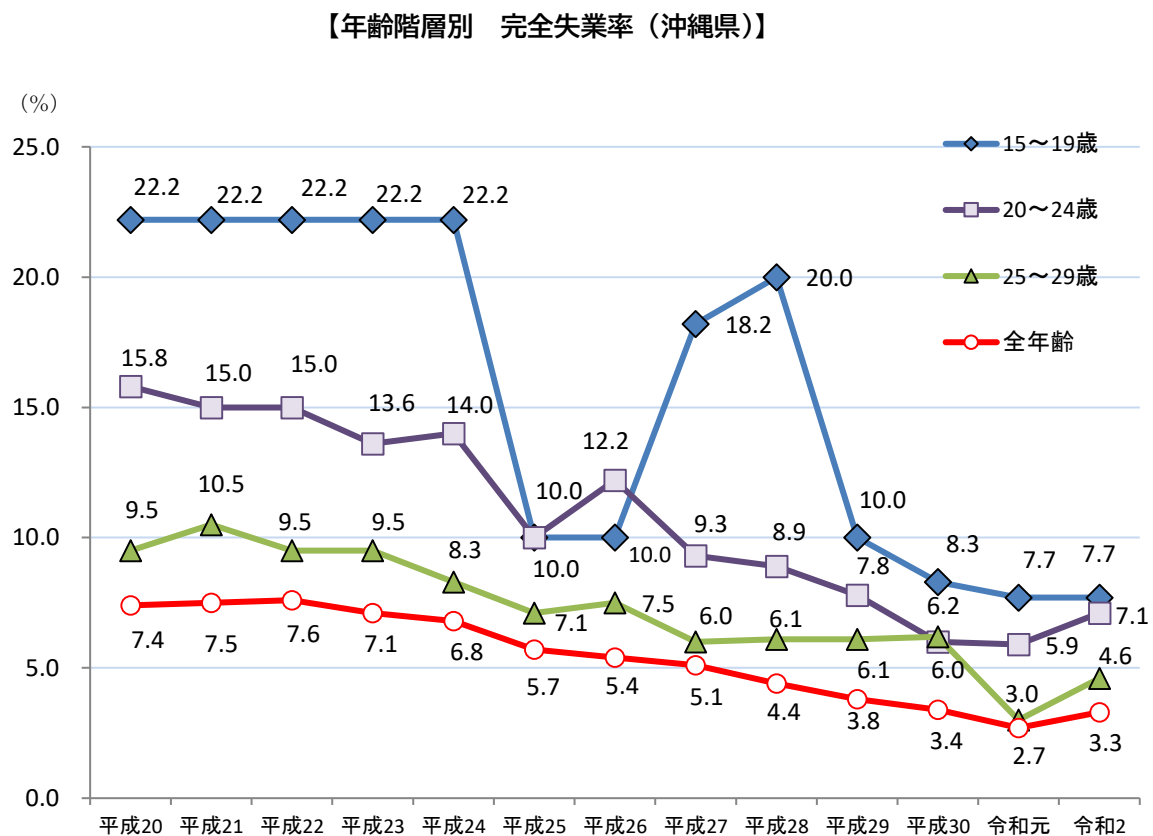
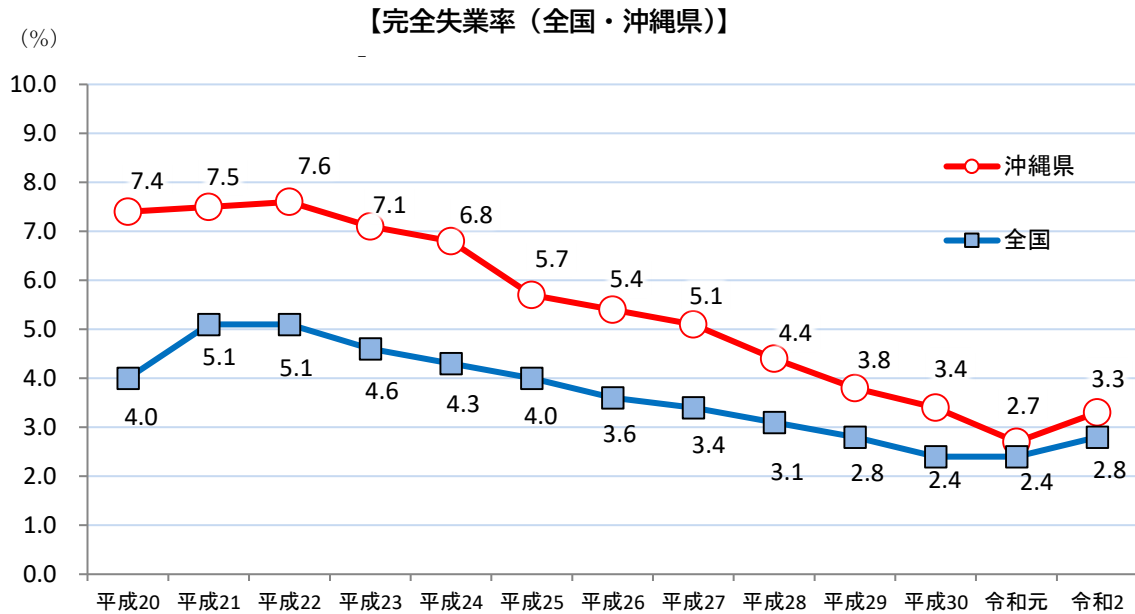
労働力人口：15歳以上の人口のうち、「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの



資料：沖縄県企画部統計課「労働力調査」

(6) 若年者の完全失業率

沖縄県の完全失業率は、平成23年以降低下傾向にあります。全国平均より高い状態にあります。また、若年者の失業率は、全年齢と比較すると高い状態にあります。

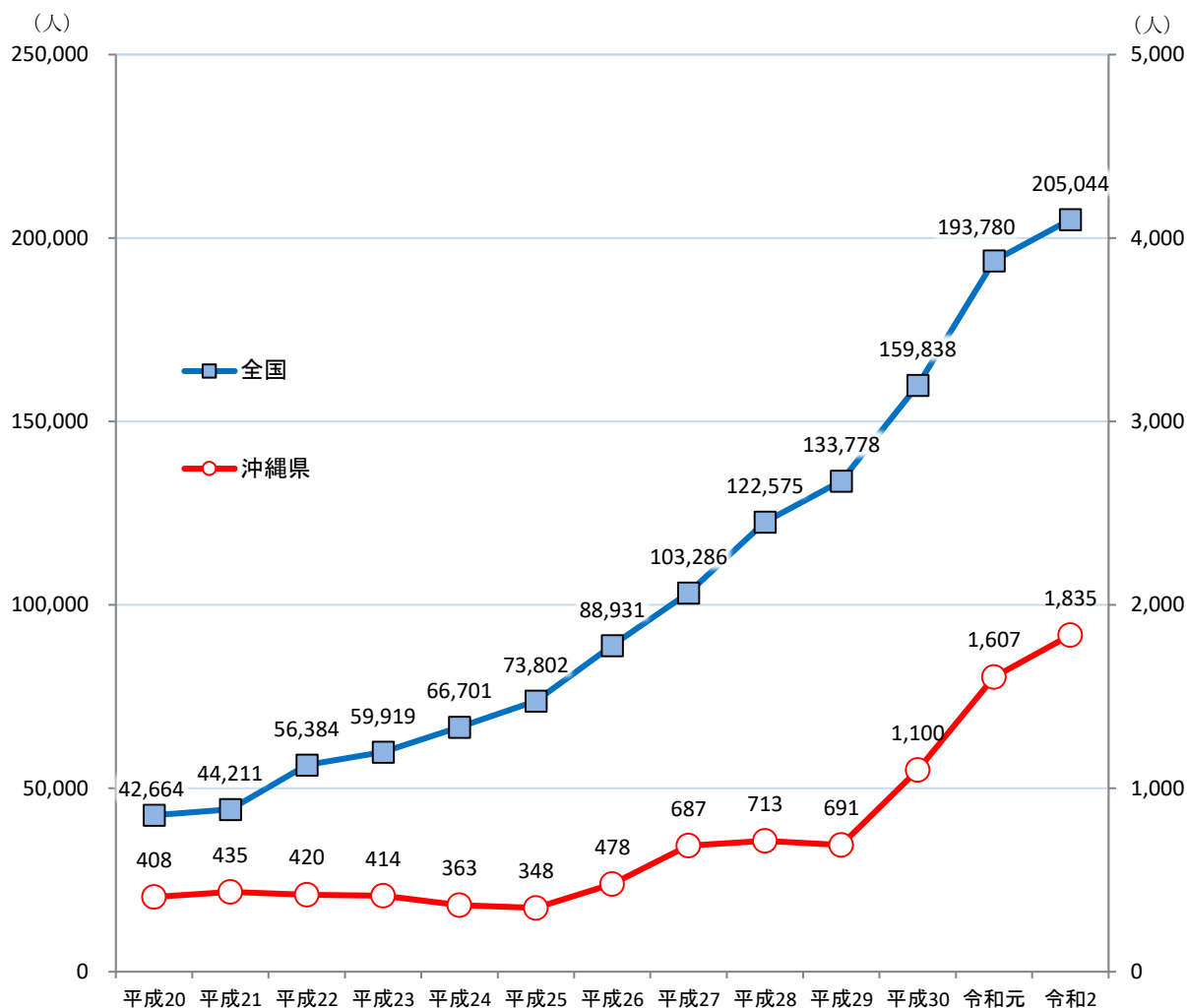


資料：沖縄県企画部統計課「労働力調査」

(7) 児童虐待

沖縄県の児童虐待相談対応件数は、全国平均とともに年々上昇しており、特に平成30年以降は大きく増加しています。

【児童相談所での児童虐待相談対応件数の推移（全国・沖縄県）】



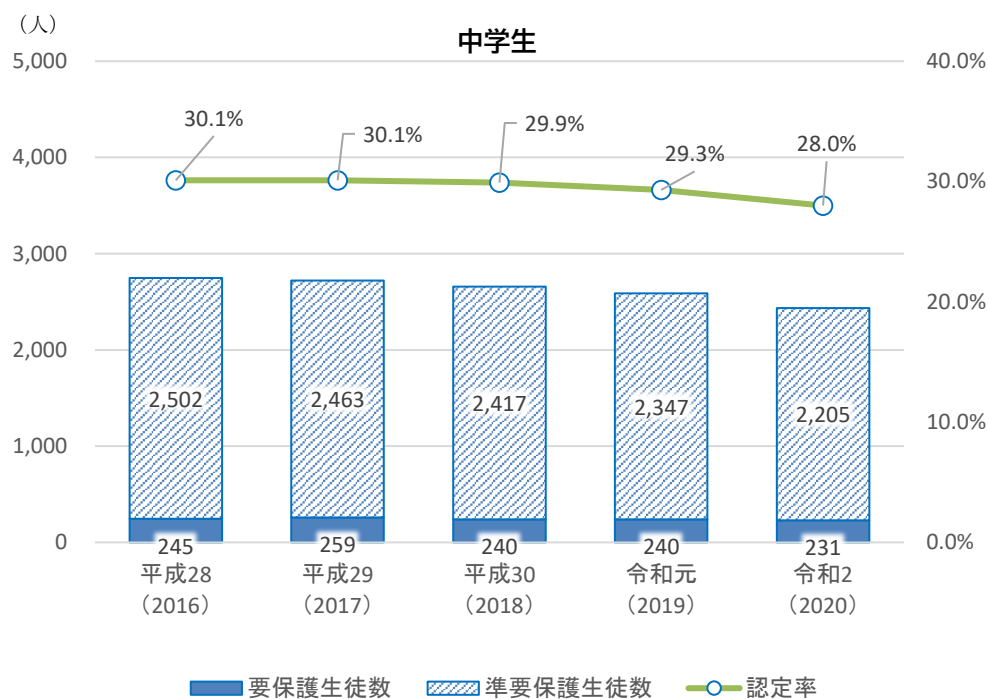
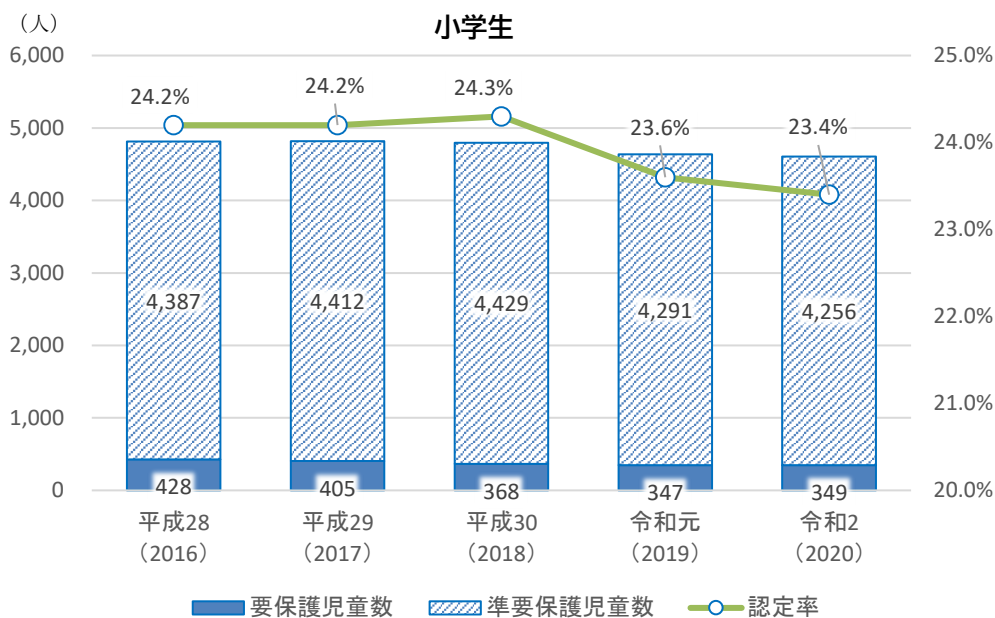
資料：厚生労働省「令和元年度児童虐待相談対応件数」「令和2年度児童虐待相談対応件数」、

平成21年～29年度の沖縄は県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課「平成29年度児童虐待相談対応状況統計資料」をもとに作成

(8) 就学援助の受給状況

那覇市の就学援助の受給者数は、小・中学校ともにこの数年やや減少傾向にありますが、認定率はほぼ横ばいで推移しています。

【就学援助受給者・認定率の推移（那覇市）】



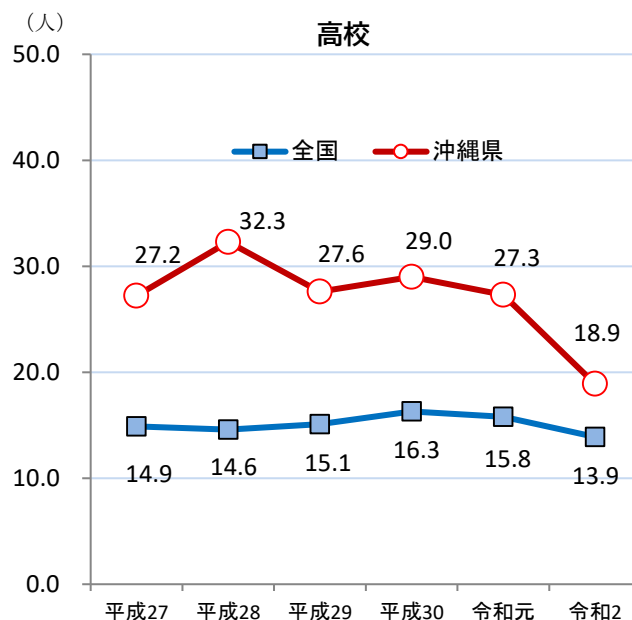
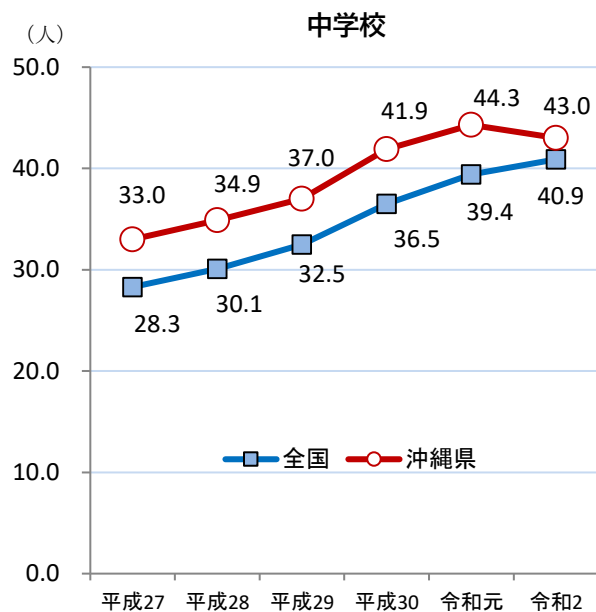
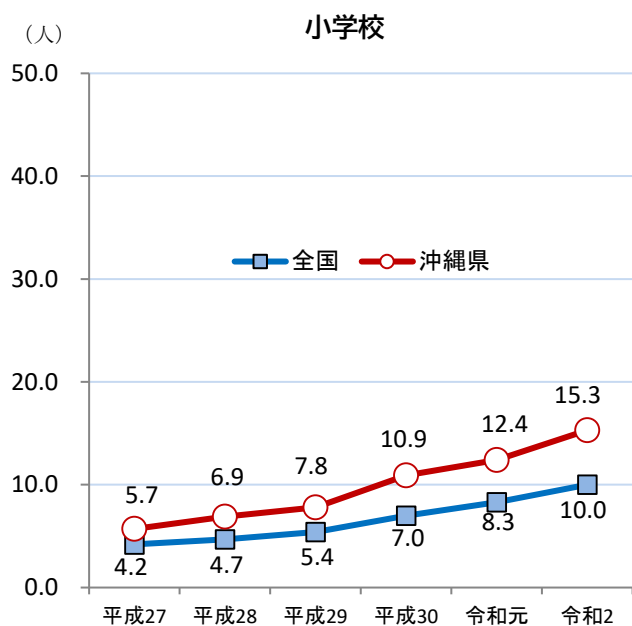
※ 認定率：全児童数または全生徒数に占める就学援助を受けた児童生徒の割合

資料：那覇市教育委員会「令和3年度那覇市の教育」

(9) 不登校

沖縄県の1,000人あたりの不登校児童・生徒数は、小・中学校は増加傾向にあり、高校は令和2年度より減少していますが、全世代ともに全国平均を上回って推移しています。

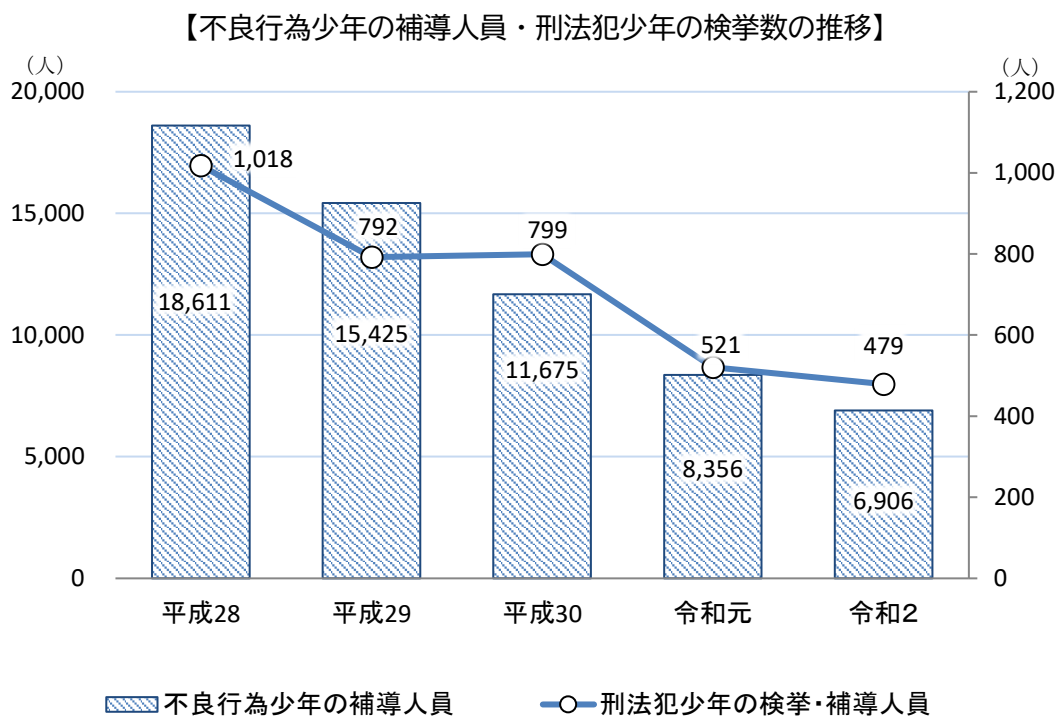
【不登校児童・生徒数の推移（全国・沖縄県）】 （1,000人あたりの人数）



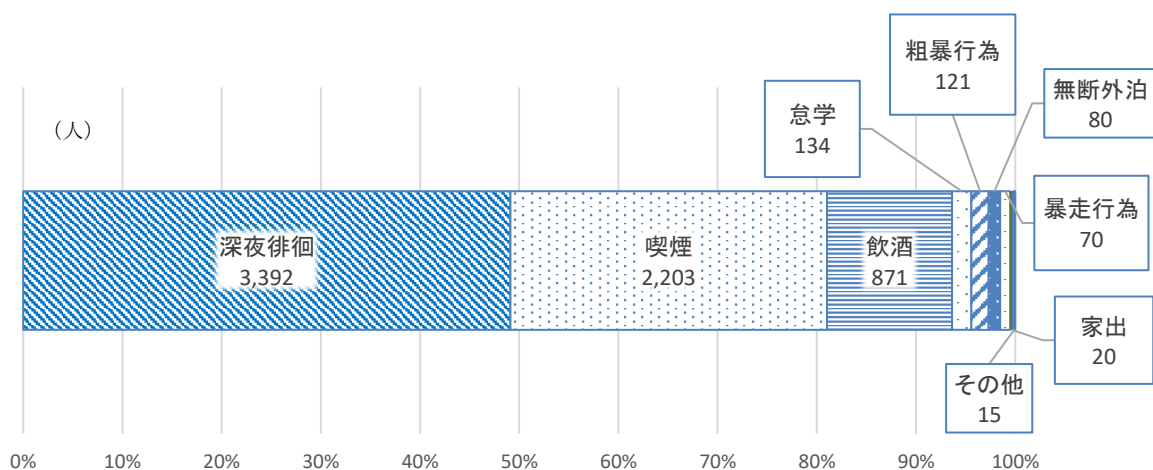
資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（令和27年度～令和2年度）

(10) 非行

沖縄県の不良行為少年の補導人員、刑法犯少年の検挙数はどちらも減少傾向にあります。また、令和2年の不良行為の内容をみると「深夜徘徊」が最も多く、次いで「喫煙」「飲酒」となっています。



【不良行為の内容（令和2年）】



資料：沖縄県警察「令和2年少年非行等の概況」

2 調査結果からみえる現状（那覇市青少年実態調査結果）

（1）調査の概要

① 調査の目的

本調査は、平成27年3月に策定した「な－ふあぬわらび・わかむん計画」の見直しにあたり、施策の対象となる子ども・若者の実態やニーズ等を把握することを目的に実施しました。

② 調査概要

調査対象	小学5年生	中学2年生	高校2年生	保護者	18歳～39歳
対象者	市内小学校に通う5年生	市内中学校に通う2年生	市内高校に通う2年生	調査対象の小・中・高生の保護者	市内在住の18歳～39歳
対象校・地域	市内36小学校	市内20中学校	市内12高校	市内68小中高校	市内全域
配布数	1,060	672	442	2,163	2,100
調査方法	学校を經由して配布・回収				住民基本台帳（令和元年12月1日時点）より無作為抽出し、郵送にて配布・回収
調査期間※	令和2年1月21日～令和2年2月14日				令和2年2月12日～令和2年3月19日

※この調査は新型コロナウイルス感染症拡大前の期間に行いました

③ 配布・回収結果

調査対象	配布数	有効回収数	有効回収率
小学5年生	1,060	998	94.2%
中学2年生	672	645	96.0%
高校2年生	442	406	91.9%
保護者	2,163	1,580	73.0%
18歳～39歳	2,100	375	17.9%
合計	6,437	4,004	62.2%

④ 報告書の見方

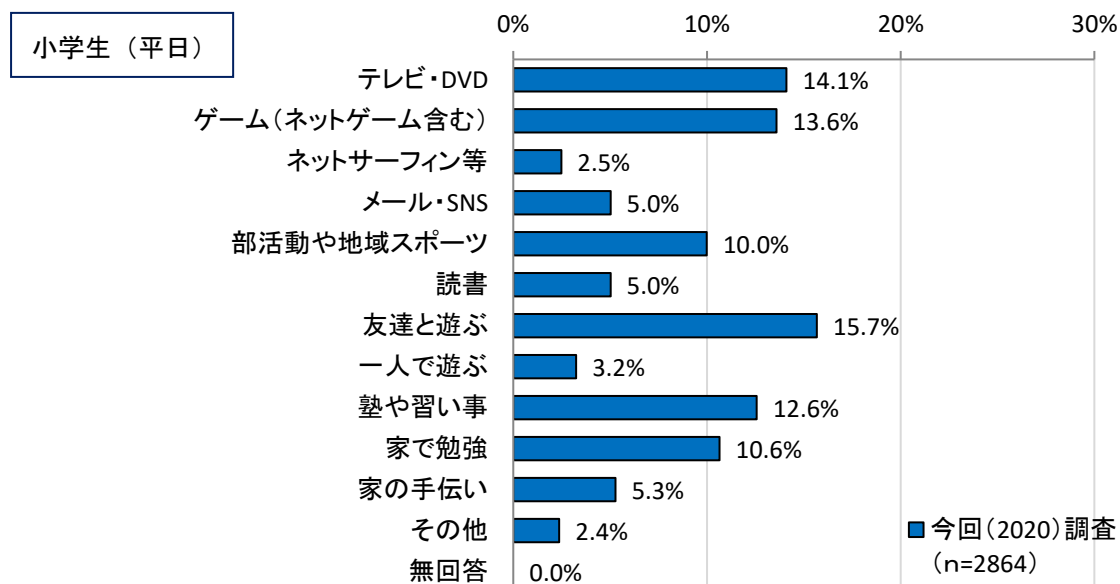
- ・ 本報告書の「n」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- ・ 回答結果の割合「%」は有効回収数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対してそれぞれの割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 「前回調査」は「2013年度那覇市青少年実態調査データ」（調査期間：2014年1月10日～24日）を資料としており、前回調査と今回調査で同様もしくは同趣旨の選択肢を並べています。また、設定していない選択肢がある場合はグラフ内に値を表示していません。
- ・ 本文及び図表において調査票の質問文や選択肢を引用する場合、これらを簡略化して表記している場合があります。

(2) 調査結果

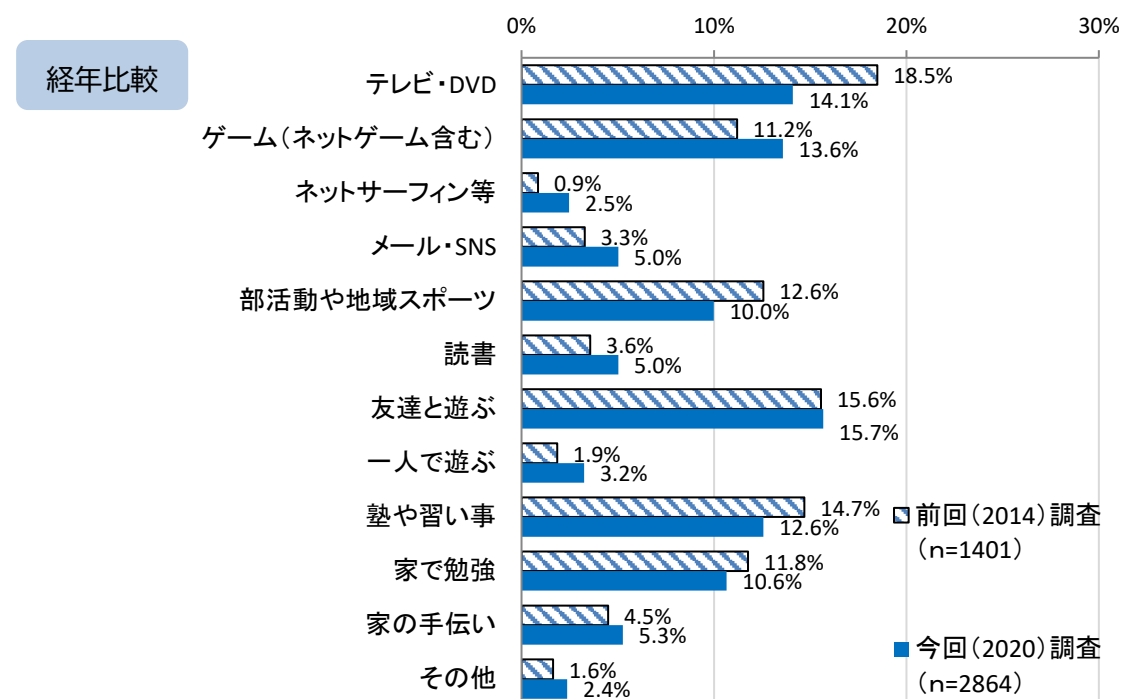
① 生活習慣

■ よくやること

次のことについて、よくやることを3つまで選んで、番号を記入してください。

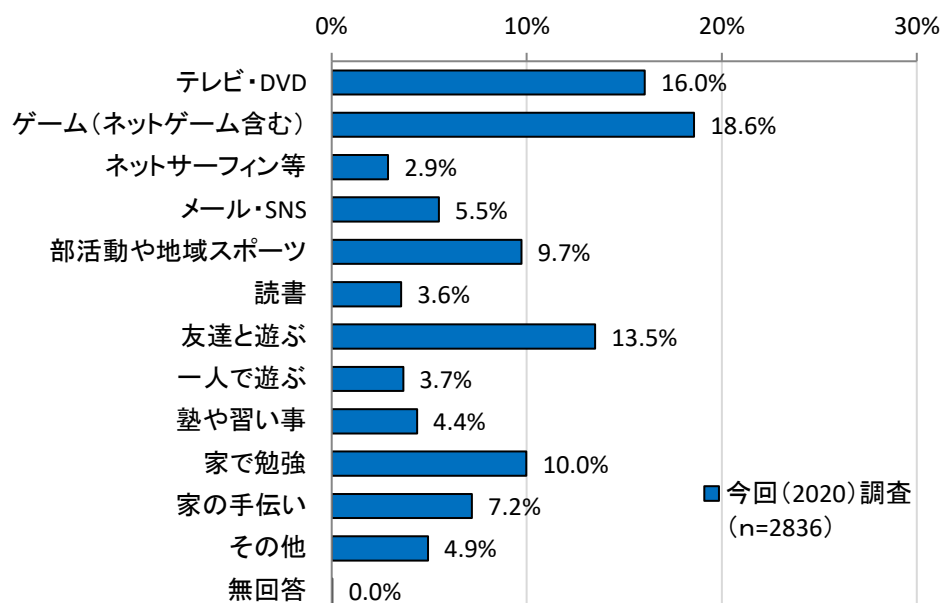


平日は「友達と遊ぶ」が最も多く 15.7%、次いで「テレビ・DVD」が 14.1%、「ゲーム(ネットゲーム含む)」が 13.6%となっています。



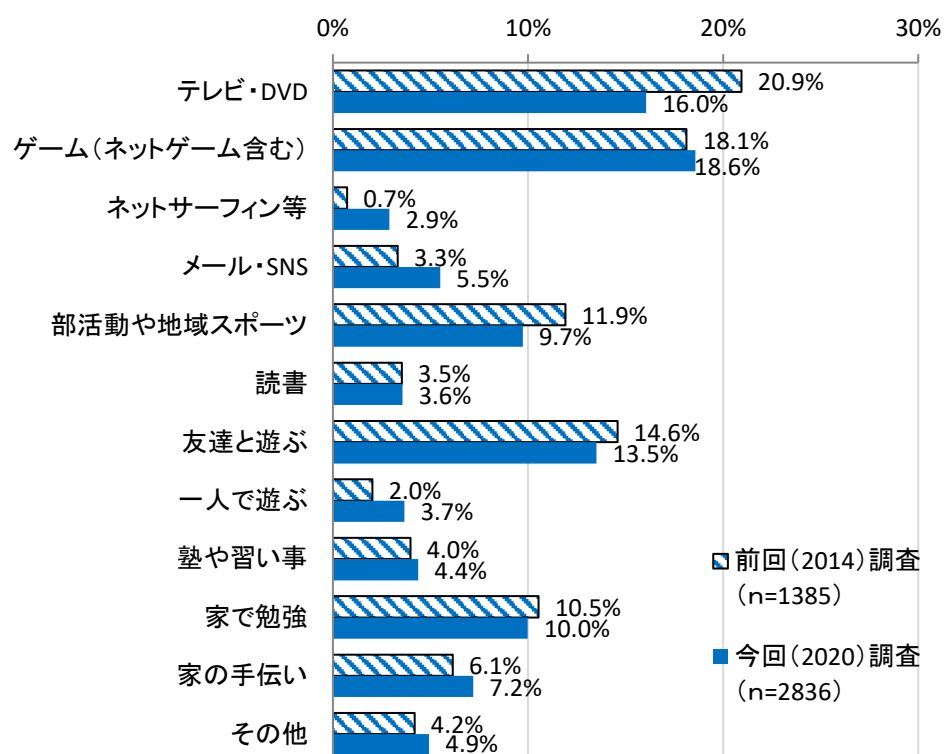
前回調査と比較すると、「ゲーム(ネットゲーム含む)」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」の割合が減少しています。

小学生（休日）

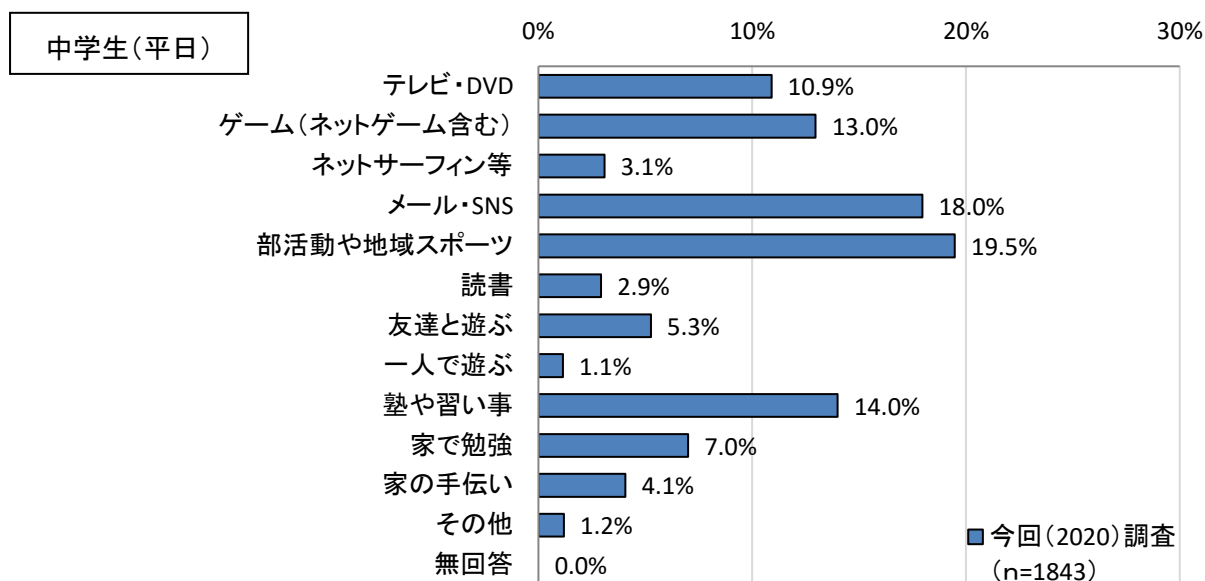


休日は「ゲーム（ネットゲーム含む）」が最も多く 18.6%、次いで「テレビ・DVD」が 16.0%、「友達と遊ぶ」が 13.5%となっています。

経年比較

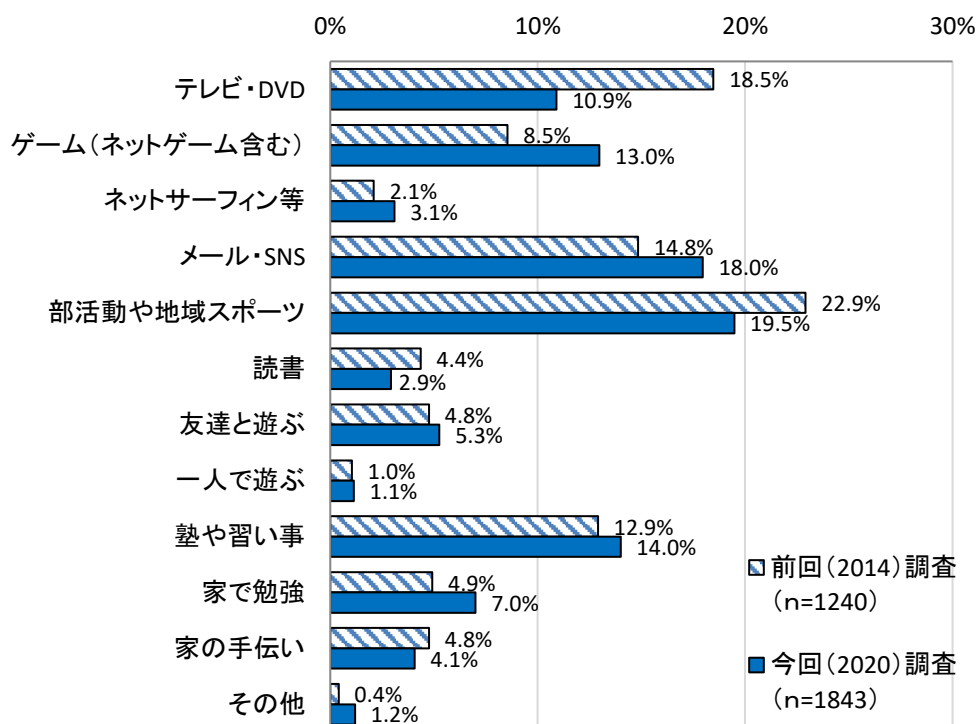


前回調査と比較すると、「ゲーム（ネットゲーム含む）」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」の割合が減少しています。



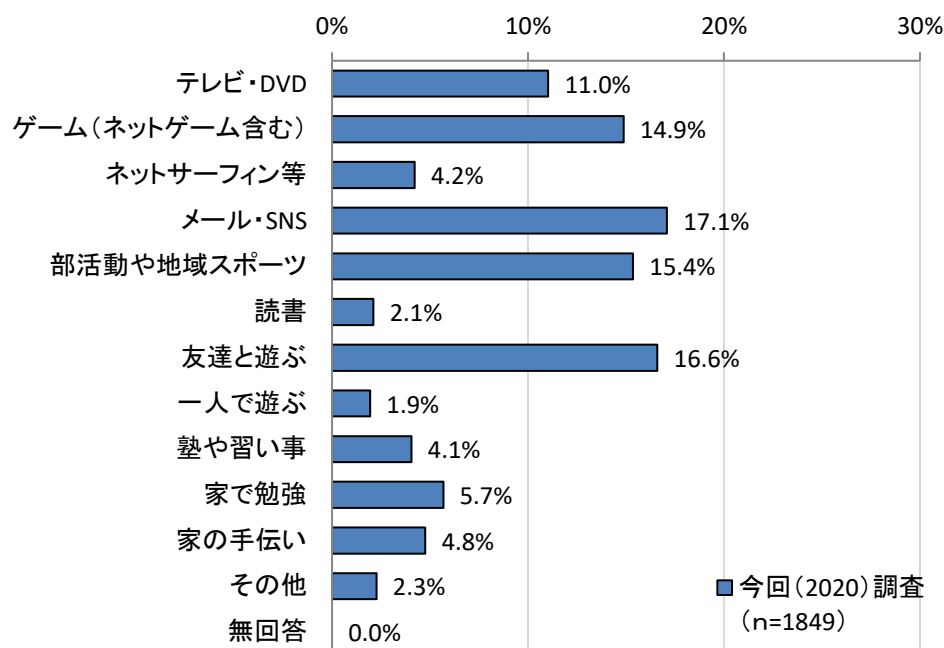
平日は「部活動や地域スポーツ」が最も多く 19.5%、次いで「メール・SNS」が 18.0%、「塾や習い事」が 14.0%となっています。

経年比較



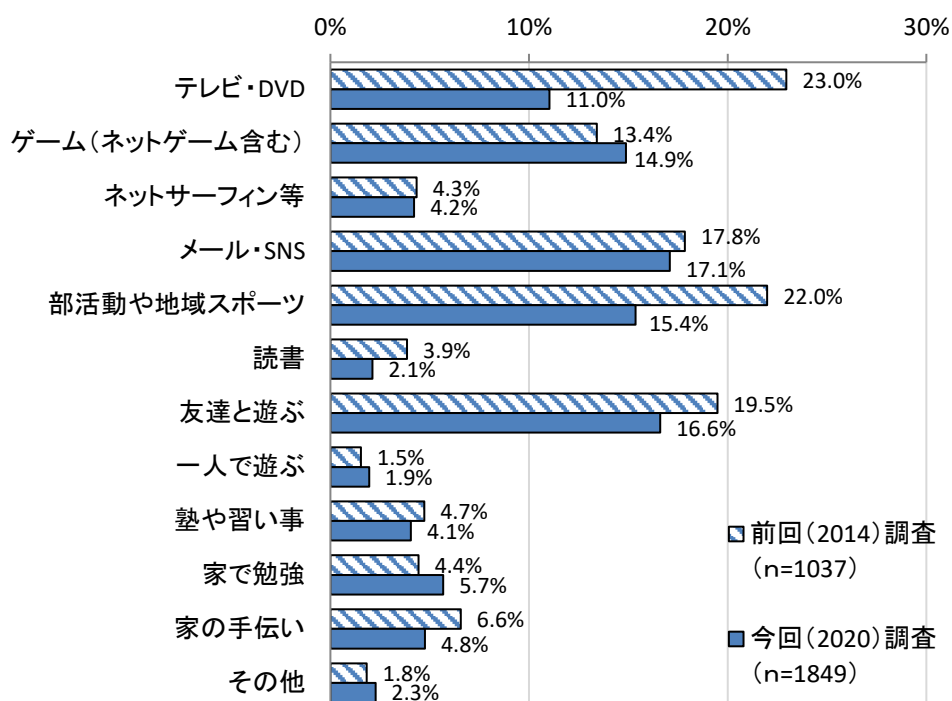
前回調査と比較すると、「メール・SNS」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」、「部活動や地域スポーツ」の割合が減少しています。

中学生(休日)



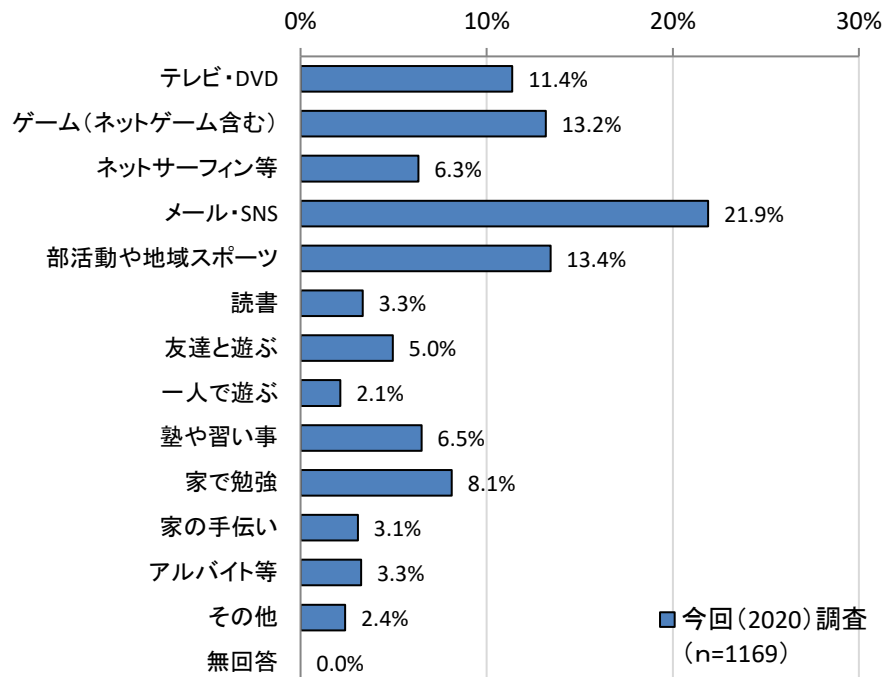
休日は「メール・SNS」が最も多く 17.1%、次いで「友達と遊ぶ」が 16.6%、「部活動や地域スポーツ」が 15.4%となっています。

経年比較



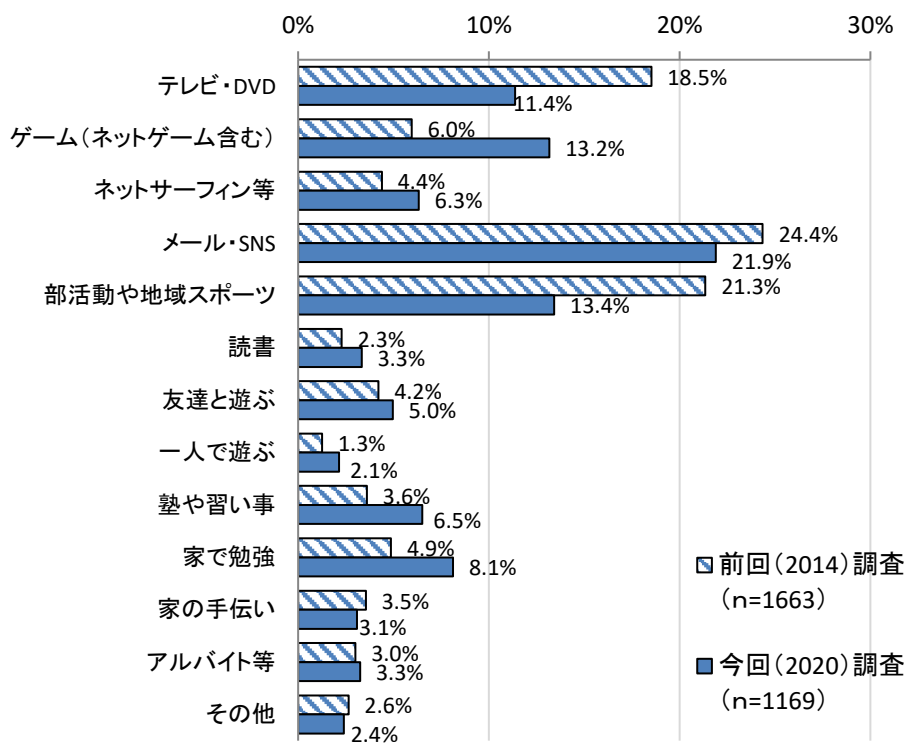
前回調査と比較すると、「ゲーム(ネットゲーム含む)」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」、「部活動や地域スポーツ」の割合は大きく減少しています。

高校生(平日)



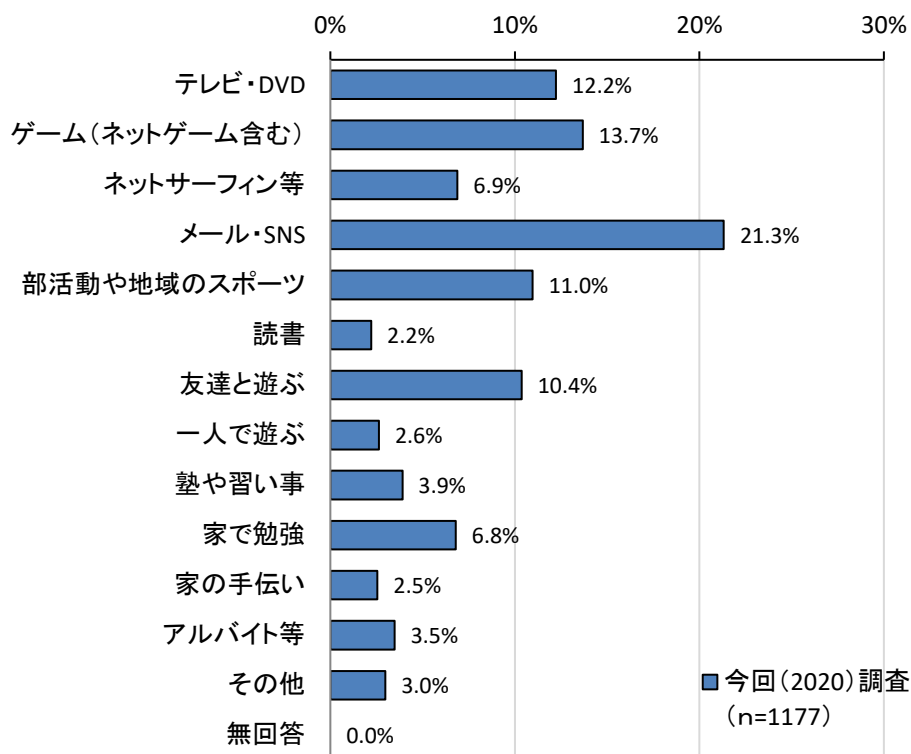
平日は「メール・SNS」が最も多く 21.9%、次いで「部活動や地域スポーツ」13.4%、「ゲーム(ネットゲーム含む)」が 13.2%となっています。

経年比較



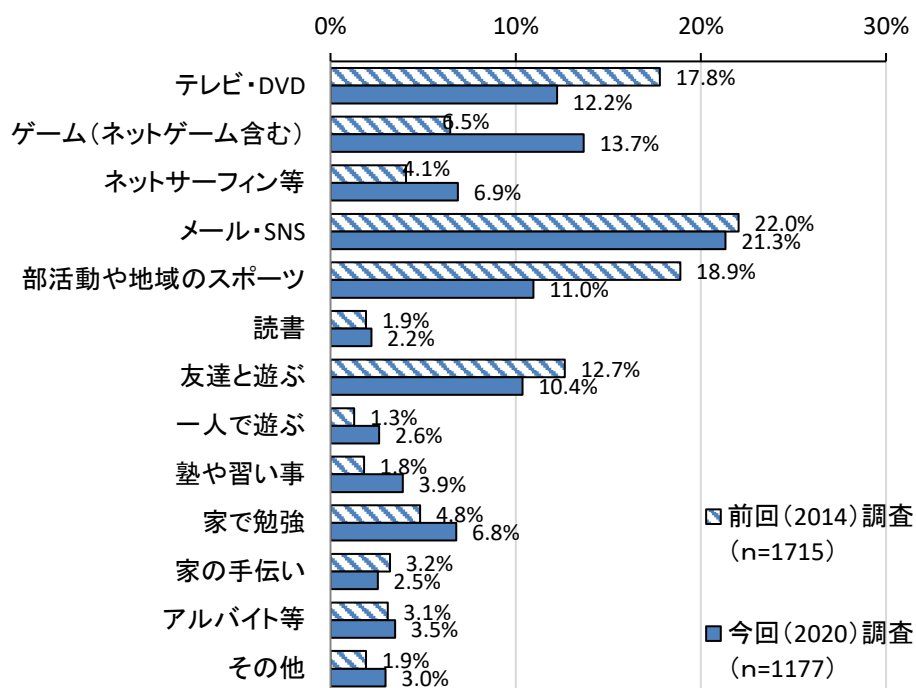
前回調査と比較すると、「ゲーム(ネットゲーム含む)」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」「部活動や地域スポーツ」の割合は大きく減少しています。

高校生(休日)



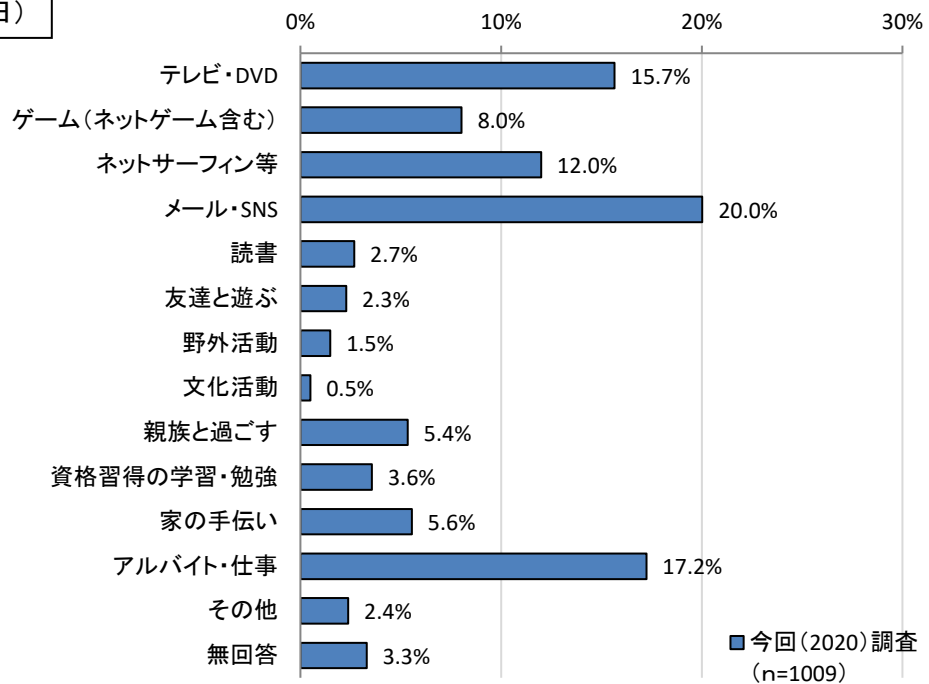
休日は「メール・SNS」が最も多く 21.3%、次いで「ゲーム（ネットゲーム含む）」が 13.7% 「テレビ・DVD」が 12.2%となっています。

経年比較



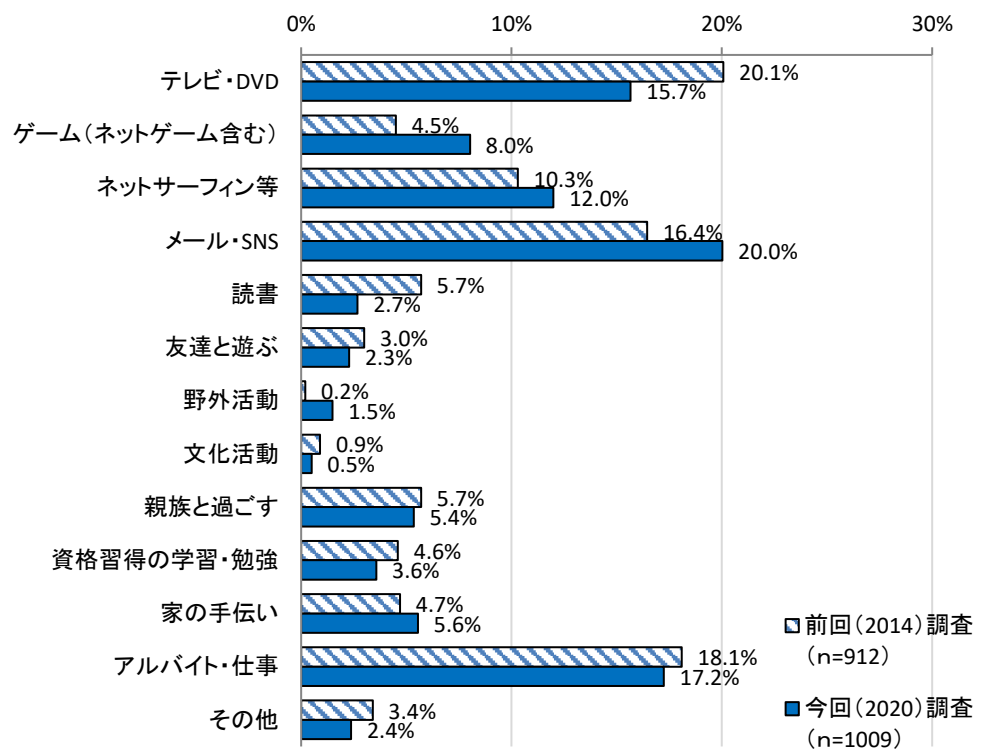
前回調査と比較すると、「ゲーム（ネットゲーム含む）」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」「部活動や地域スポーツ」の割合が減少しています。

18～39 歳(平日)



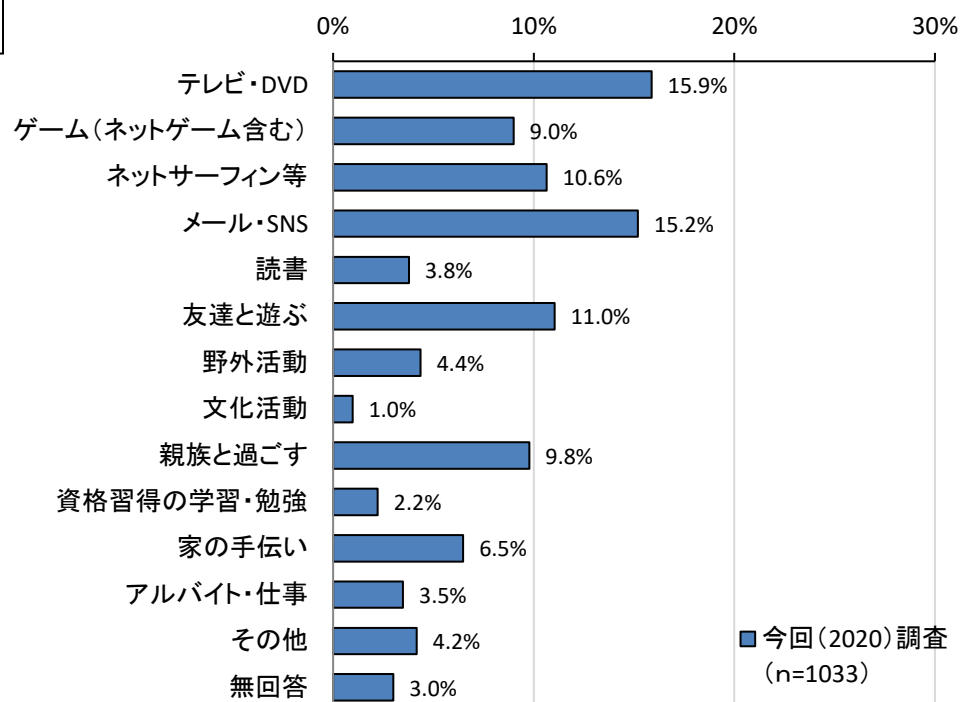
平日は「メール・SNS」が最も多く 20.0%、次いで「アルバイト・仕事」17.2%、「テレビ・DVD」が15.7%となっています。

経年比較



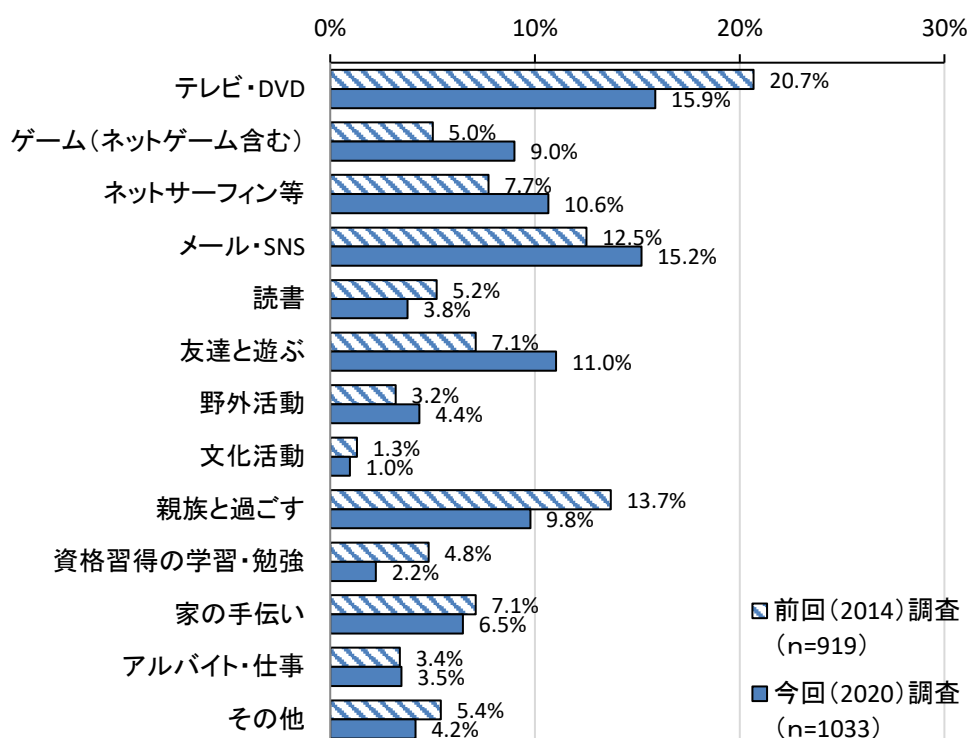
前回調査と比較すると、「メール・SNS」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」、「読書」の割合が減少しています。

18～39 歳(休日)



休日は「テレビ・DVD」が最も多く 15.9%、次いで「メール・SNS」15.2%、「友達と遊ぶ」が 11.0%となっています。

経年比較

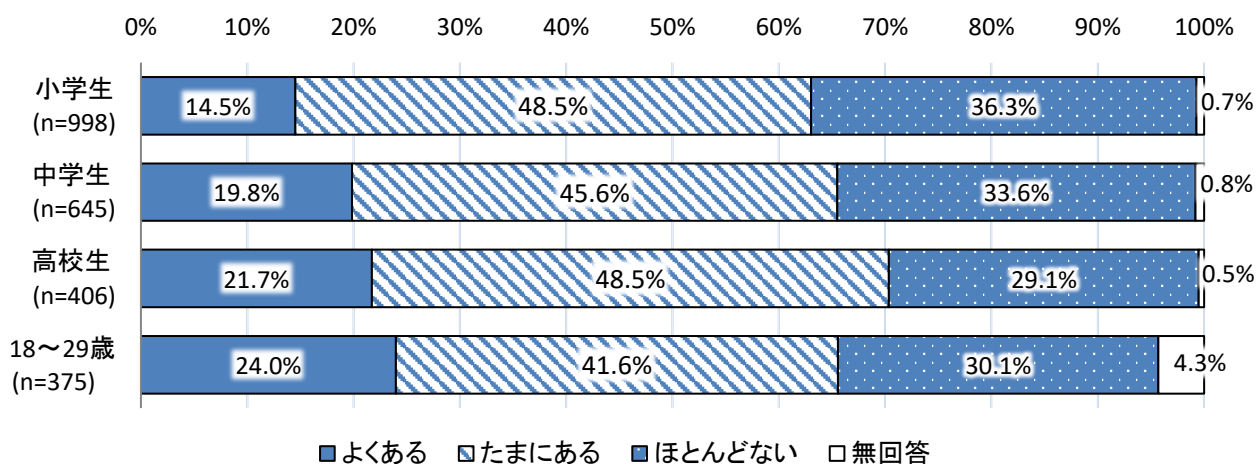


前回調査と比較すると、「メール・SNS」の割合が増加しています。一方、「テレビ・DVD」、「親族と過ごす」の割合が減少しています。

② 意識

■ 学校（職場）に行きたくない

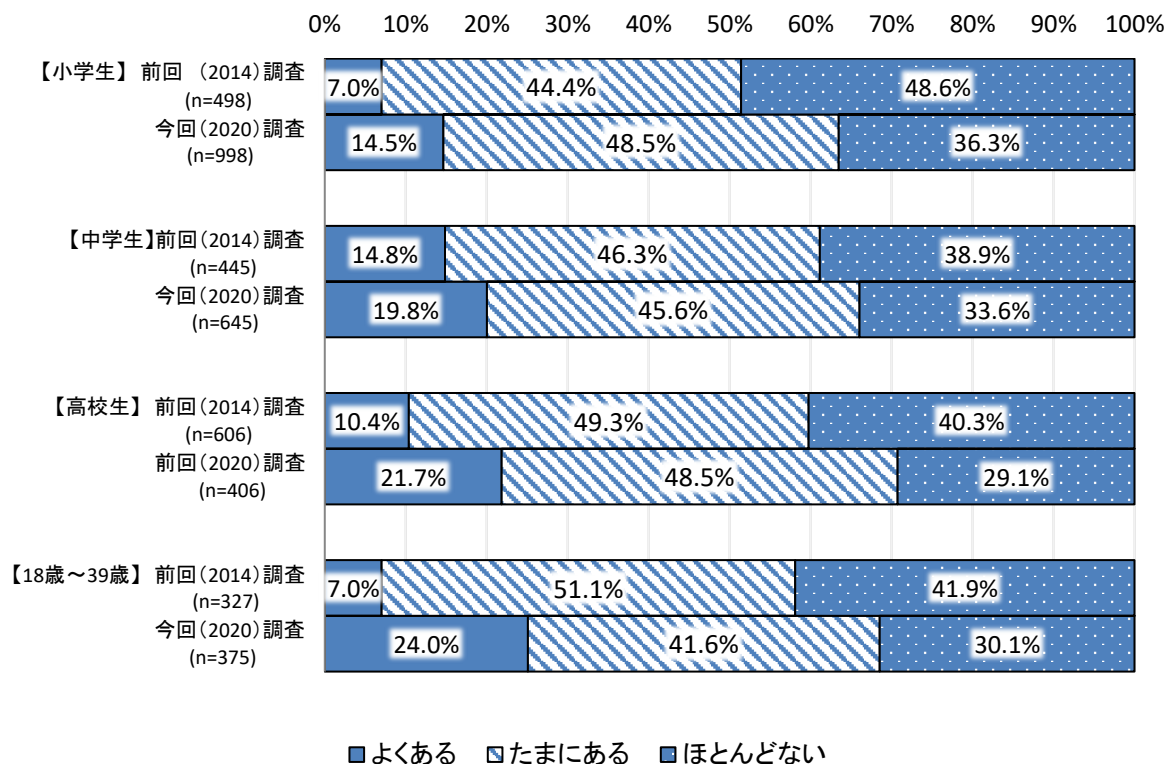
あなたは、学校（又は職場）に行きたくないと思うことがありますか。【あてはまる 1 つに○】



全世代ともに「たまにある」が最も多く、「よくある」と合わせるとどの世代でも 60%を超えています。

経年比較

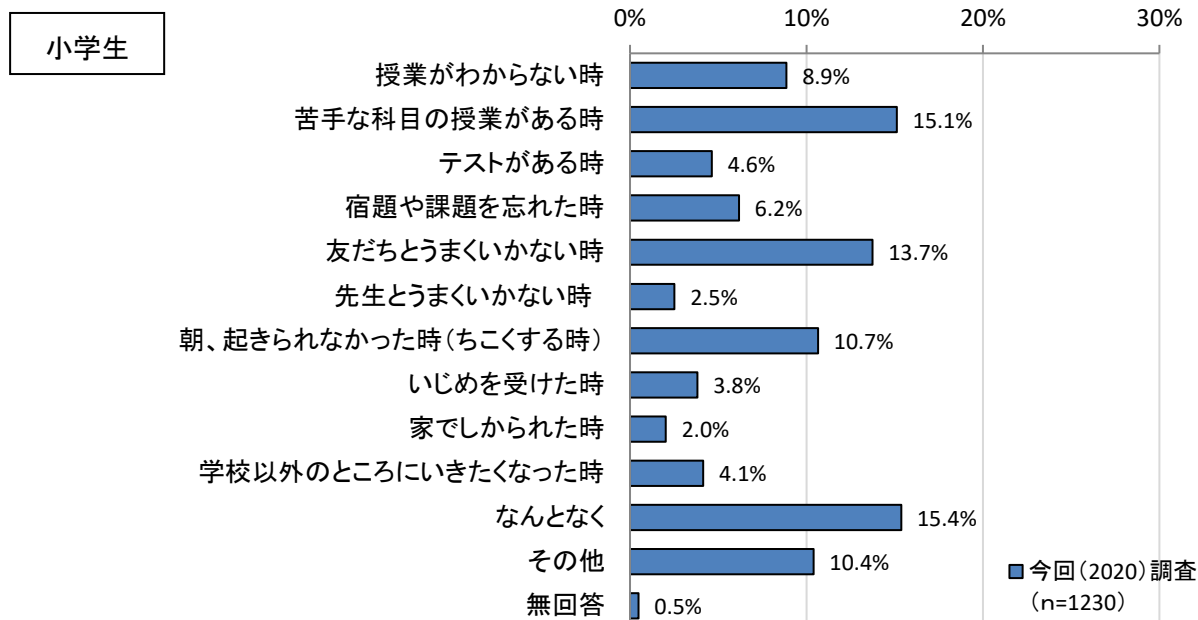
【 学校（又は職場）に行きたくないと思うことがありますか 】



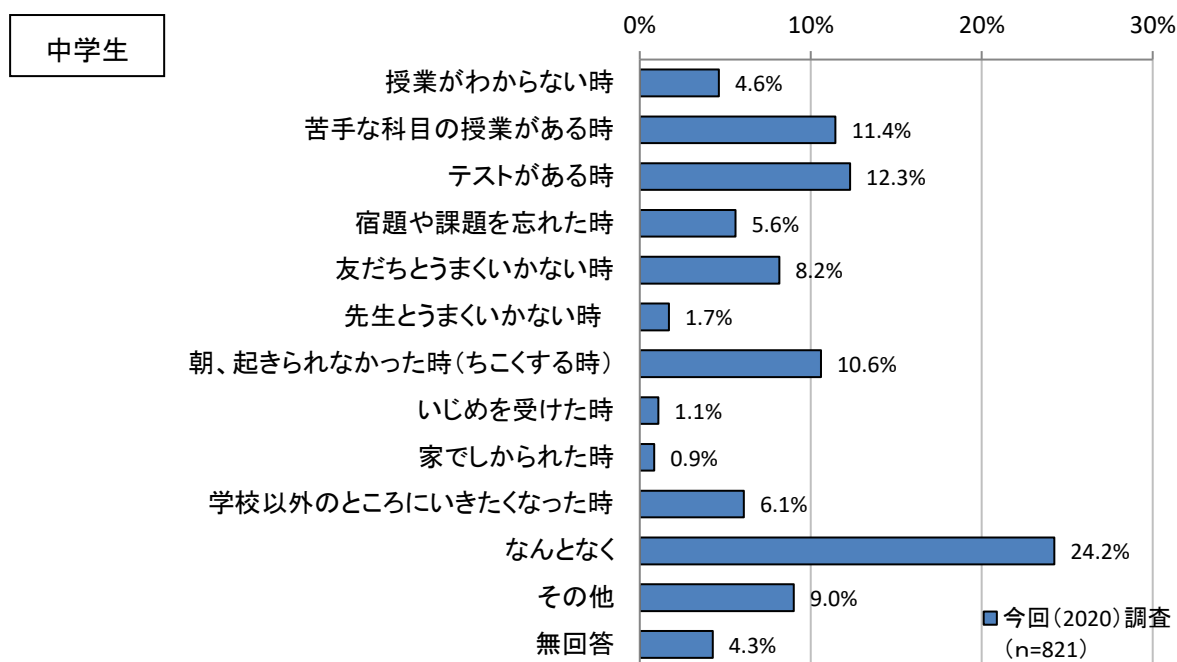
前回調査と比較すると、全世代で「よくある」、「たまにある」の割合が増加しており、「学校（職場）に行きたくない」と思う人が増えている傾向がみられます。

■ 学校（職場）に行きたくない理由

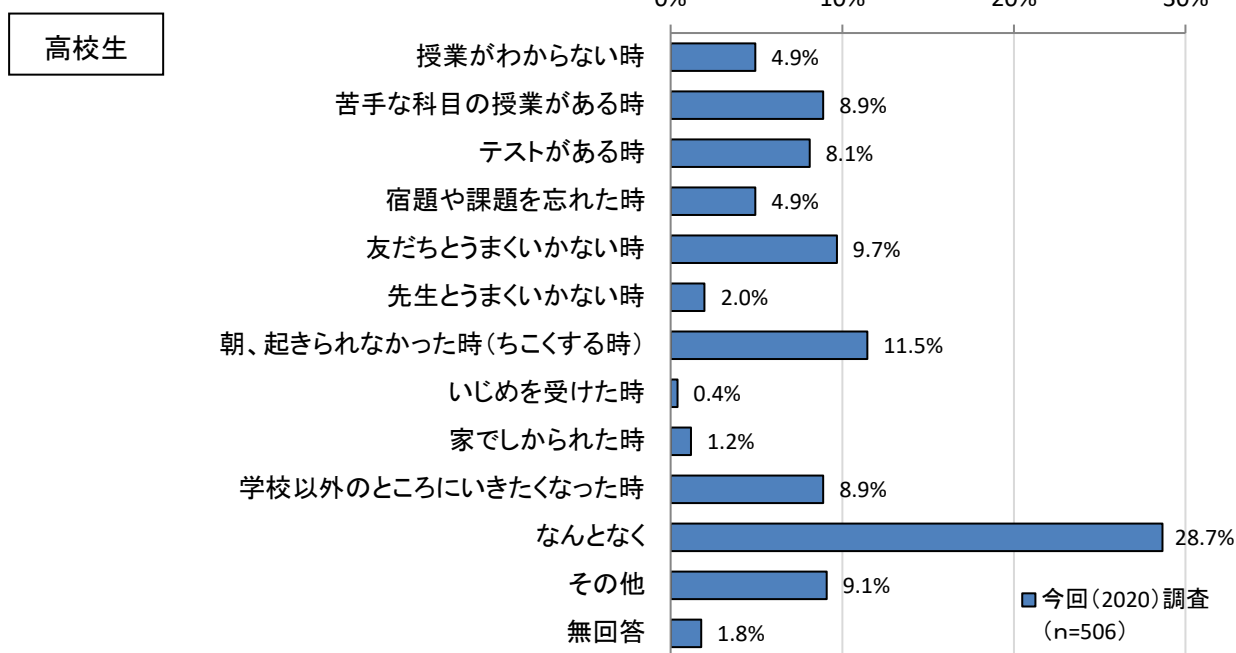
行きたくない理由は何ですか。【あてはまる3つまで○】



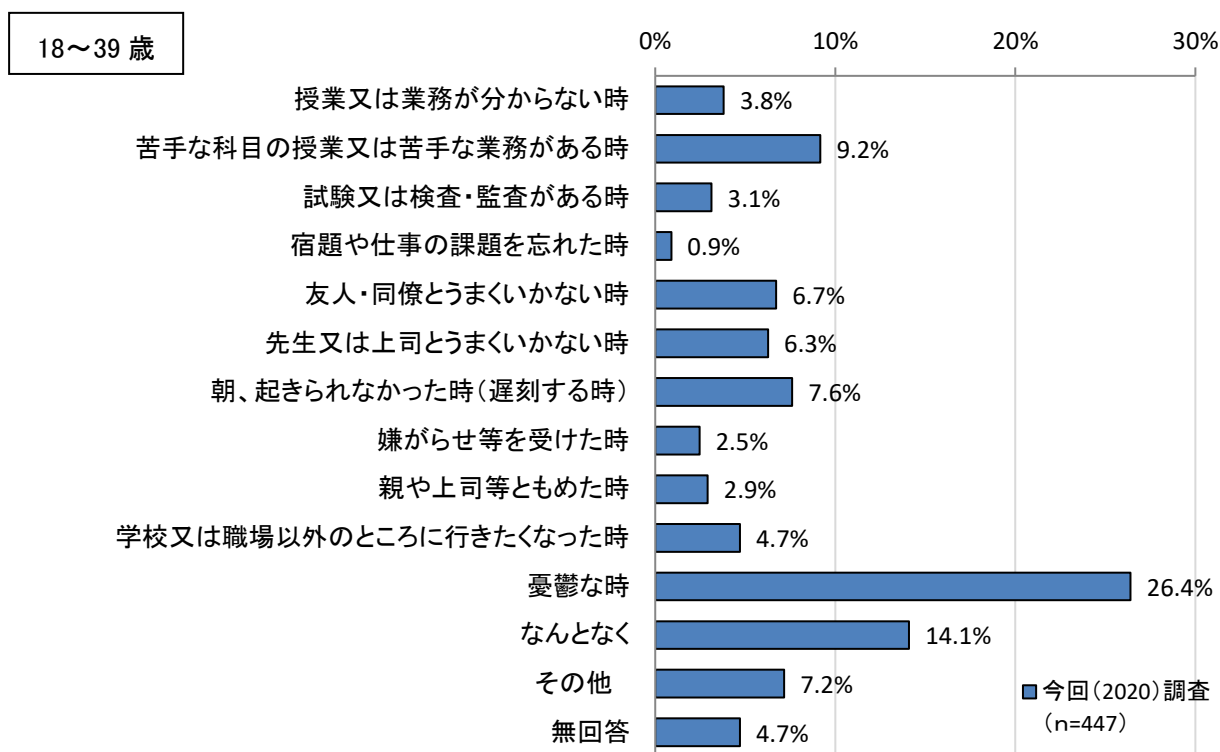
学校に行きたくない理由は「なんとなく」が最も多く 15.4%、次いで「苦手な科目の授業がある時」が 15.1%、「友達とうまくいかない時」が 13.7%となっています。



学校に行きたくない理由は「なんとなく」が最も多く 24.2%、次いで「テストがある時」が 12.3%、「苦手な科目の授業がある時」が 11.4%となっています。



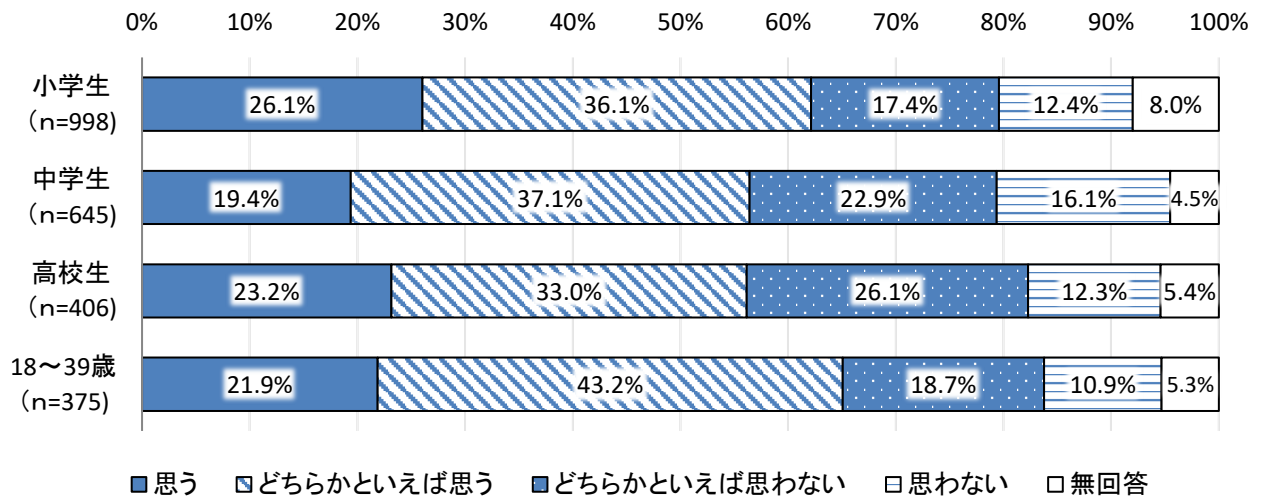
学校に行きたくない理由は「なんとなく」が最も多く 28.7%、次いで「朝、起きられなかった時」が 11.5%、「友だちとうましくない時」が 9.7%となっています。



学校(職場)に行きたくない理由は「憂鬱な時」が最も多く 26.4%、次いで「なんとなく」が 14.1%、「苦手な科目の授業又は苦手な業務がある時」が 9.2%となっています。

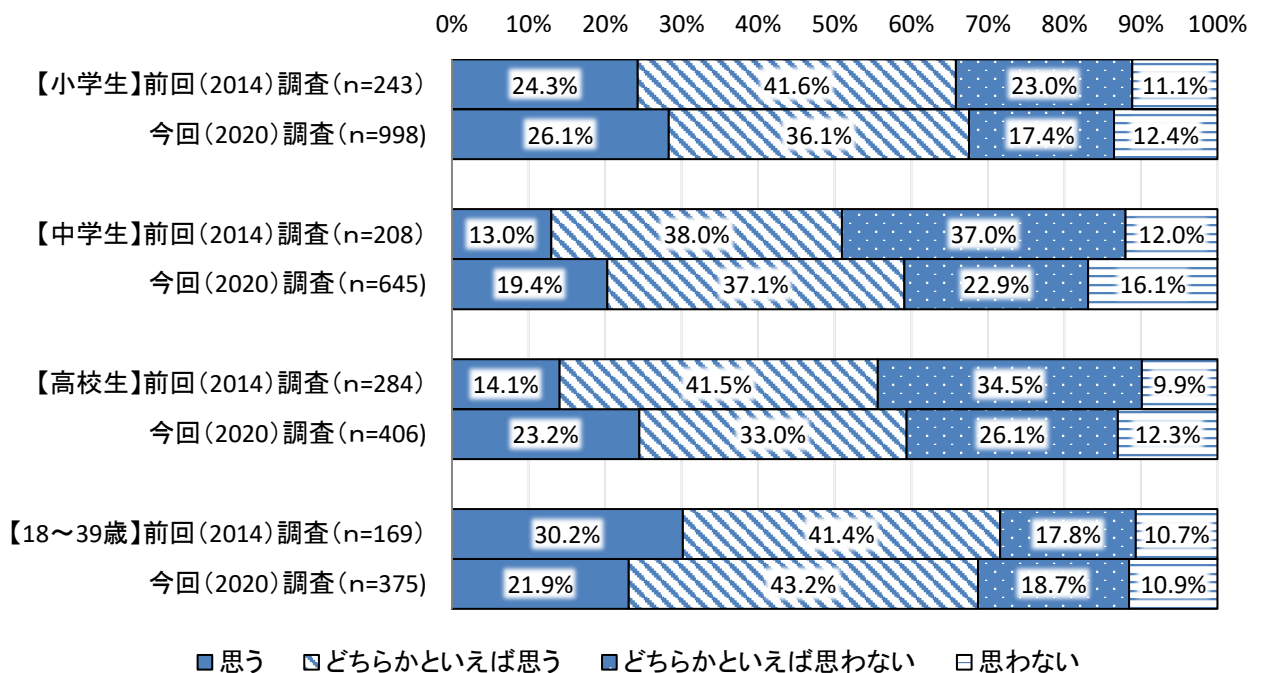
■ 価値ある存在

自分は価値ある存在だと思いますか。【あてはまる1つに○】



自分が価値ある存在だと「思う」と最も多く回答したのは小学生の26.1%で、次いで、高校生が23.2%、18～39歳が21.9%となっています。

経年比較

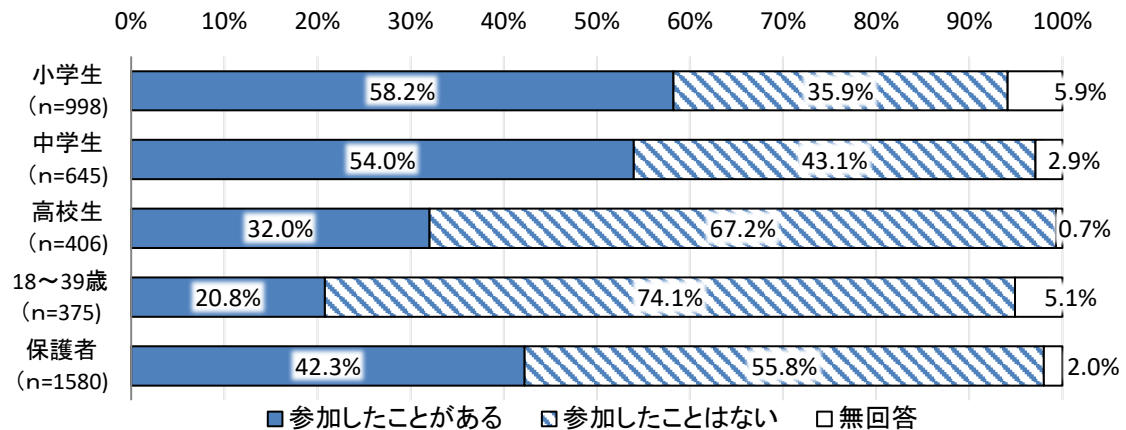


前回調査と比較すると、小学生・中学生・高校生で「思う」と答えた人の割合は増加しています。一方、18～39歳の割合は減少しています。

③ 体験活動

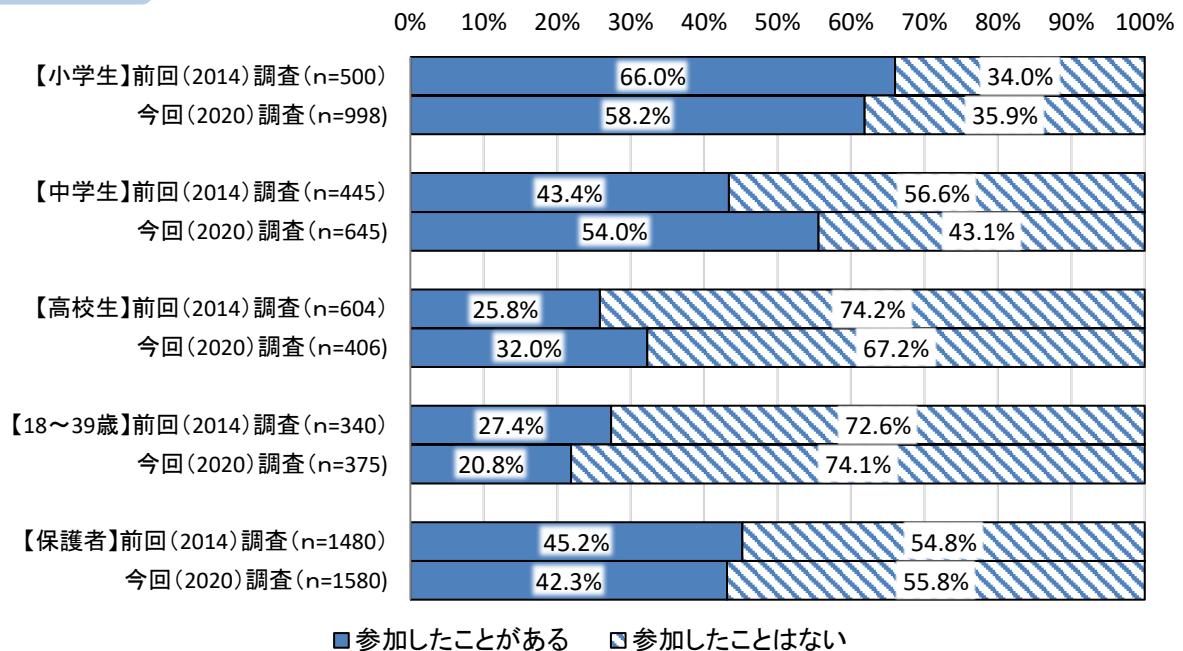
■ 地域行事への参加

あなたはこの1年間に、地域のグループ・団体の活動や、自治会・町内会の行事などに参加したことがありますか。【あてはまる1つに○】



「参加したことがある」の割合が最も多いのは小学生で 58.2%、次いで、中学生が 54.0%、保護者が 42.3%となっています。

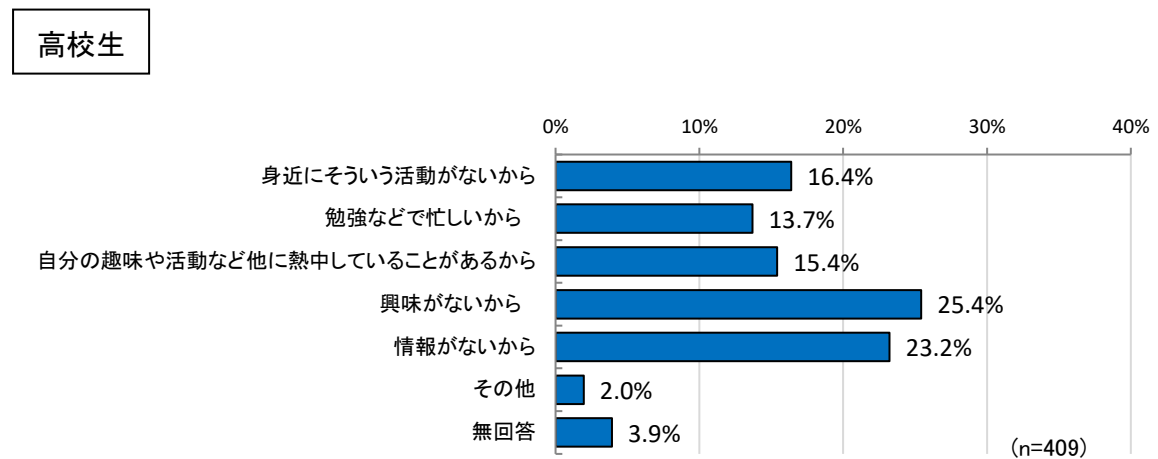
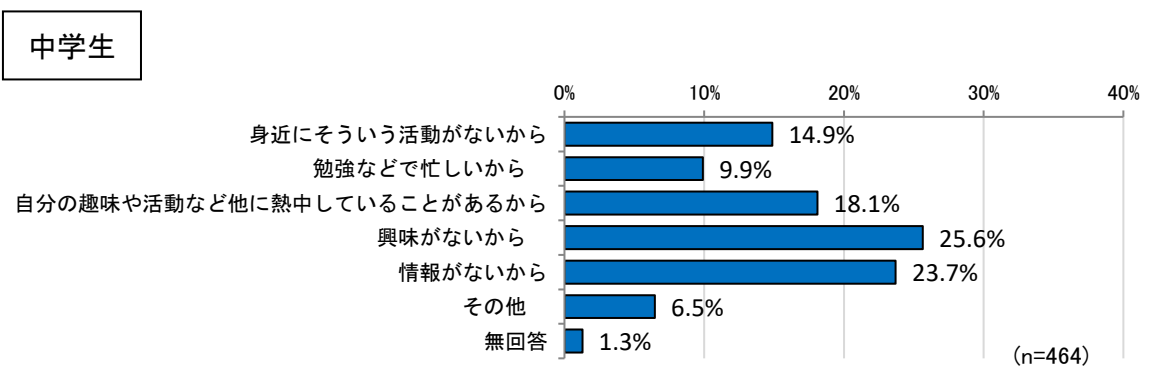
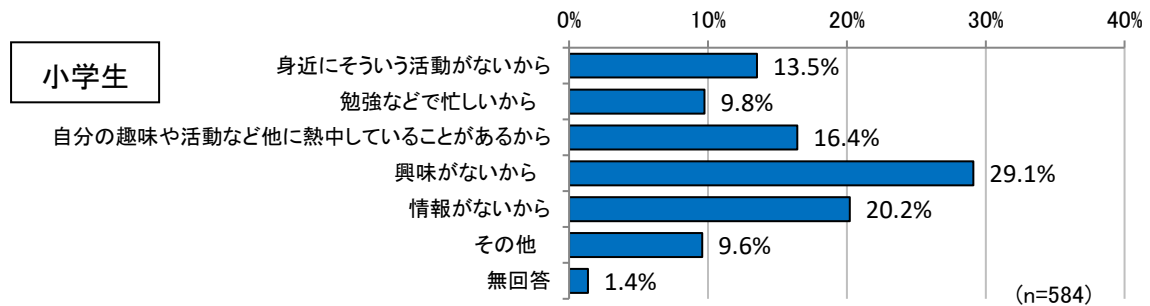
経年比較



前回調査と比較すると、中学生・高校生で「参加したことがある」と答えた人の割合は増加しています。一方、小学生・18～39歳、保護者の割合は減少しています。

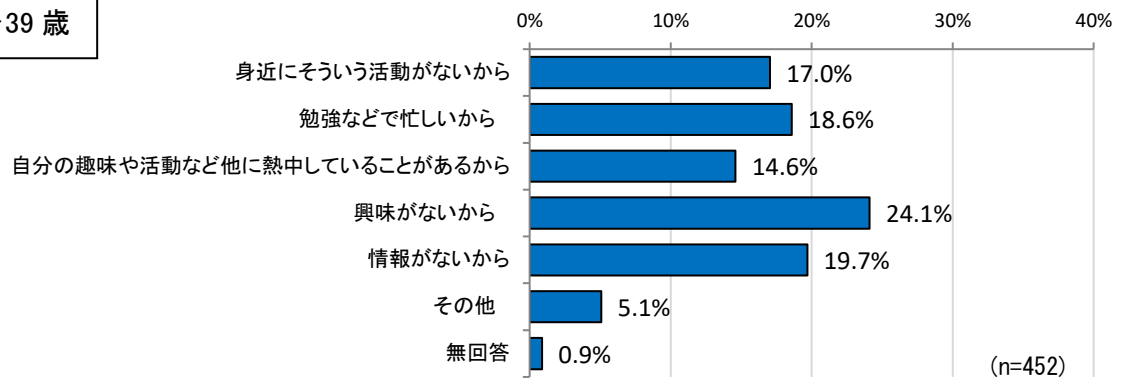
■ 参加しない理由

「参加したことはない」と答えた方にお聞きします。参加しない理由は何ですか。
【あてはまるすべてに○】

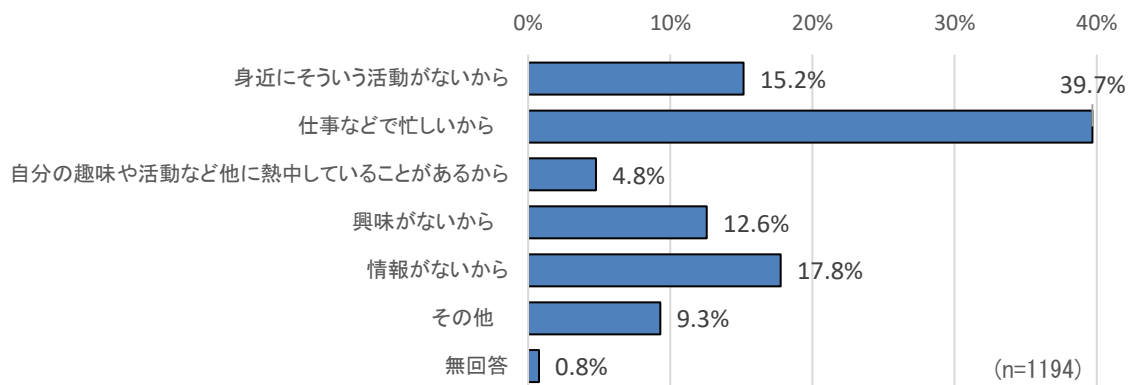


小学生・中学生・高校生ともに、「興味がないから」が最も多く、次いで「情報がないから」となっています。

18～39 歳



保護者

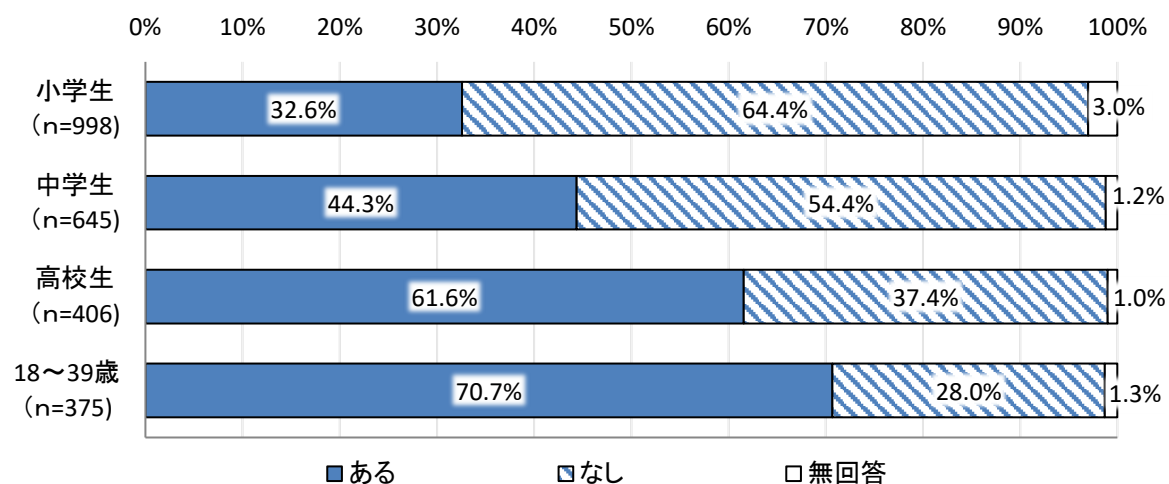


18～39 歳は小学生・中学生・高校生と同じく、「興味がないから」が最も多く、次いで「情報がないから」となっています。一方、保護者は「仕事などが忙しいから」が最も多く、次いで「情報がないから」となっています。

④ 悩み・心配ごと

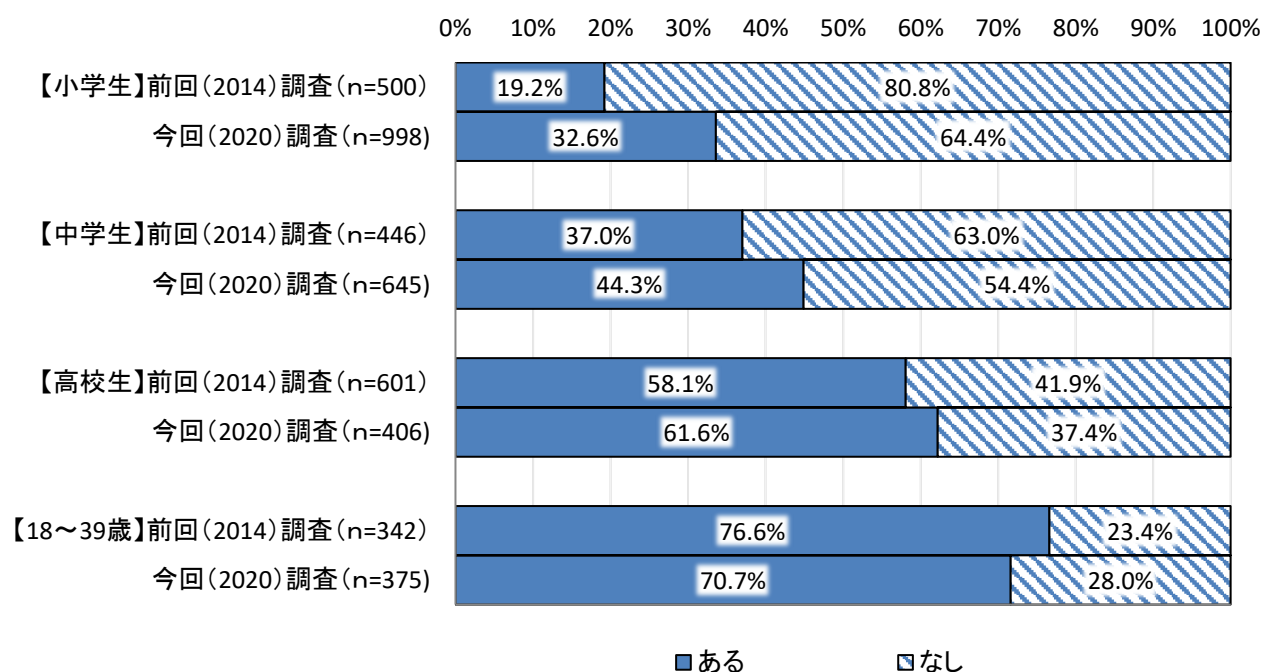
■ 悩み・心配

現在、悩みごとや心配ごとがありますか。【あてはまる 1 つに○】



「ある」と回答した割合は、18～39 歳が最も多く 70.7%、次いで高校生が 61.6%、中学生が 44.3%となっています。

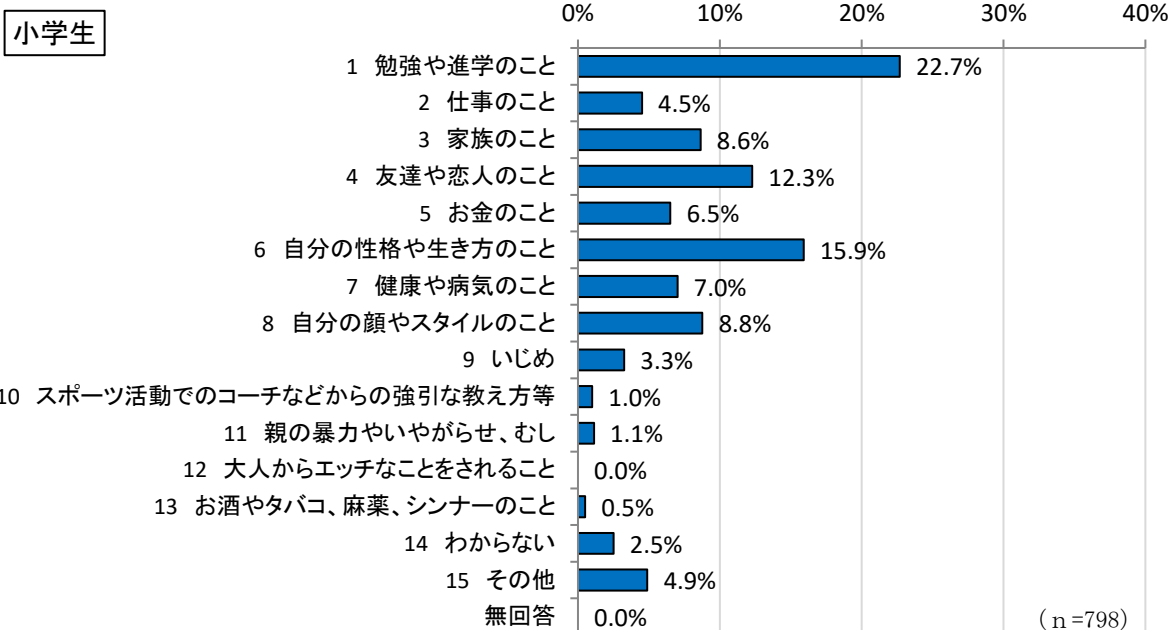
経年比較



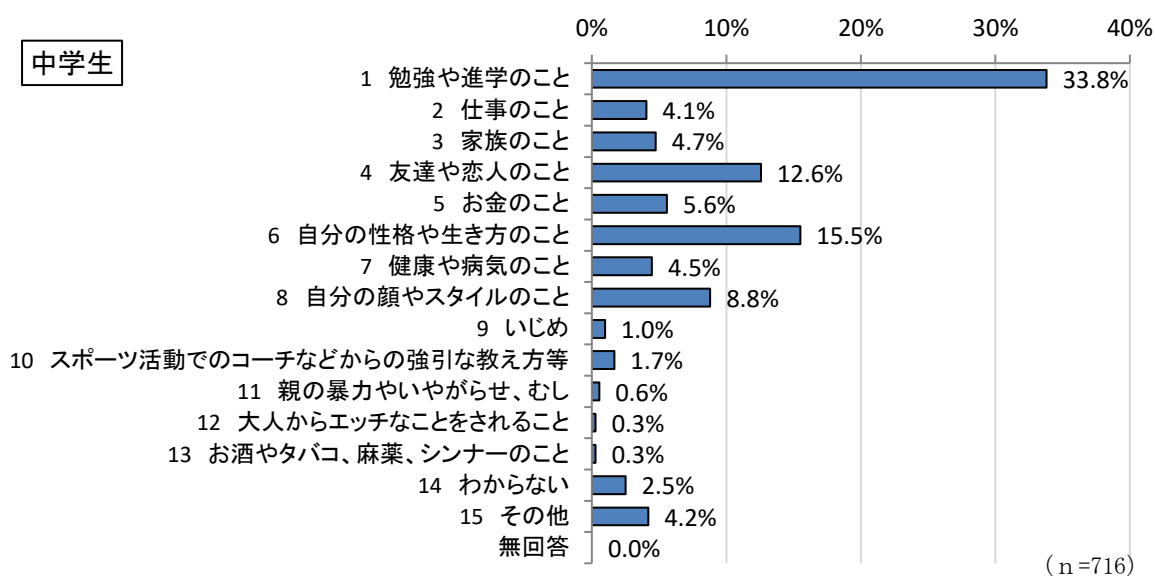
前回調査と比較すると、小学生・中学生・高校生ともに「ある」の割合は増加しています。一方、18～39 歳の割合は減少しています。

■ 悩み・心配の理由

「ある」と答えた人にお聞きします。悩みごと、心配ごとは次のどれにあてはまりますか。
【あてはまるすべてに○】

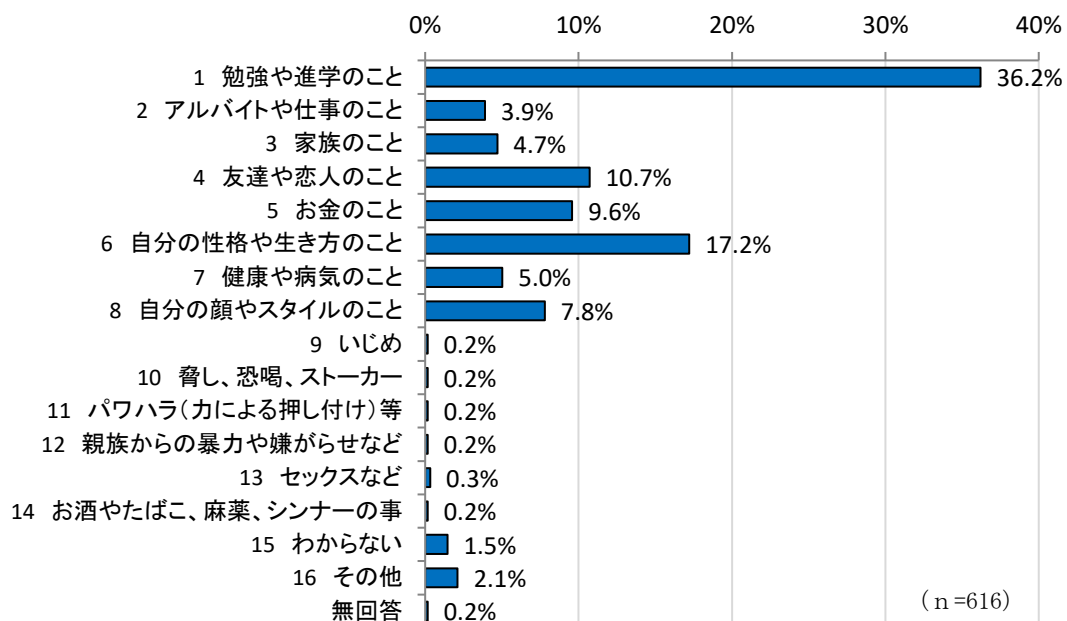


「勉強や進学のこと」が最も多く 22.7%、次いで「自分の性格や生き方のこと」が 15.9%、「友達や恋人のこと」が 12.3%となっています。



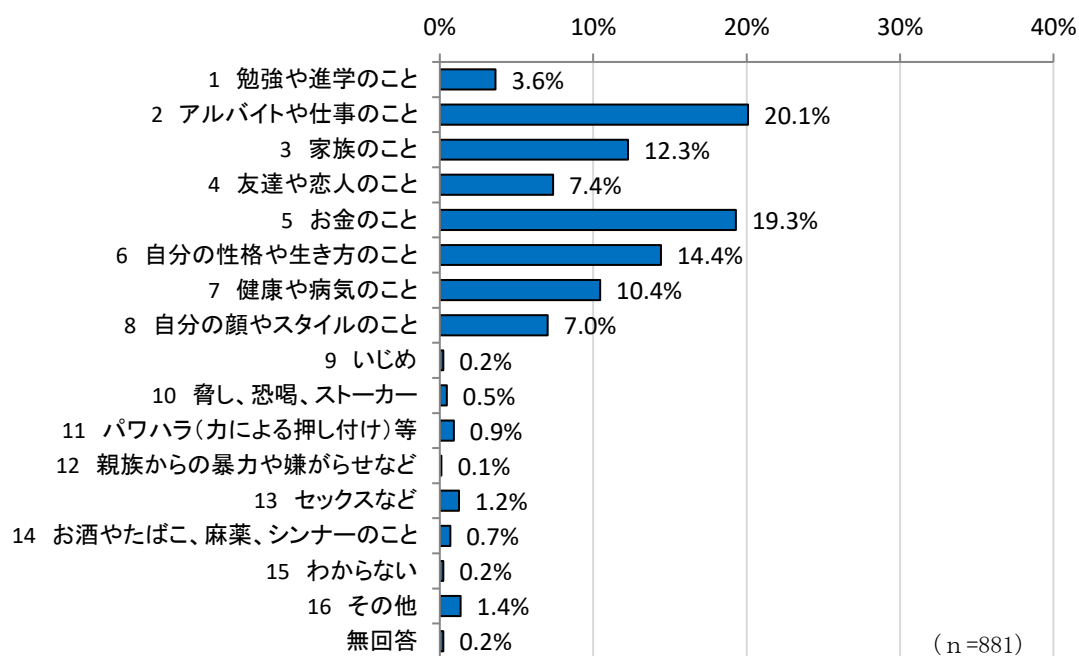
「勉強や進学のこと」が最も多く 33.8%、次いで「自分の性格や生き方のこと」が 15.5%、「友達や恋人のこと」が 12.6%となっています。

高校生



「勉強や進学のこと」が最も多く 36.2%、次いで「自分の性格や生き方のこと」が 17.2%、「友達や恋人のこと」が 10.7%となっています。

18～39歳

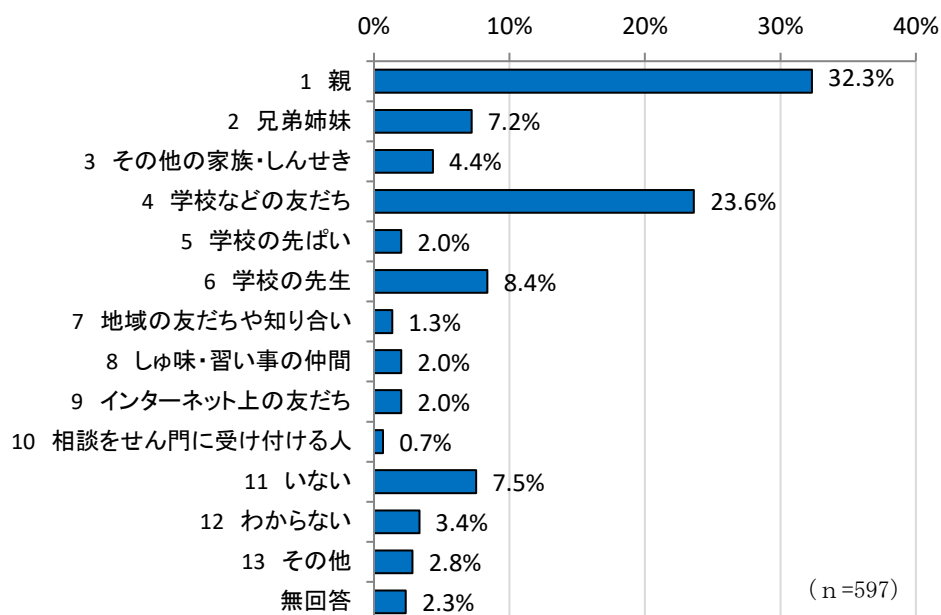


「アルバイトや仕事のこと」が最も多く 20.1%、次いで「お金のこと」が 19.3%、「自分の性格や生き方のこと」が 14.4%となっています。

■ 悩み・心配の相談相手

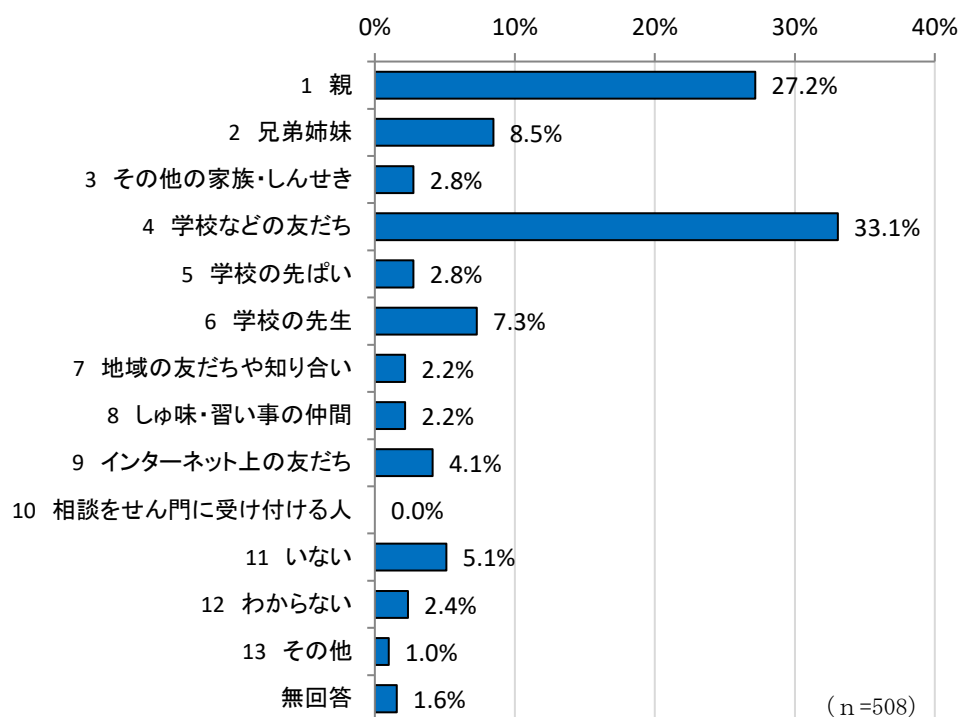
悩みごと、心配ごとで困ったときは、誰に相談しますか。【あてはまる3つまで○】

小学生

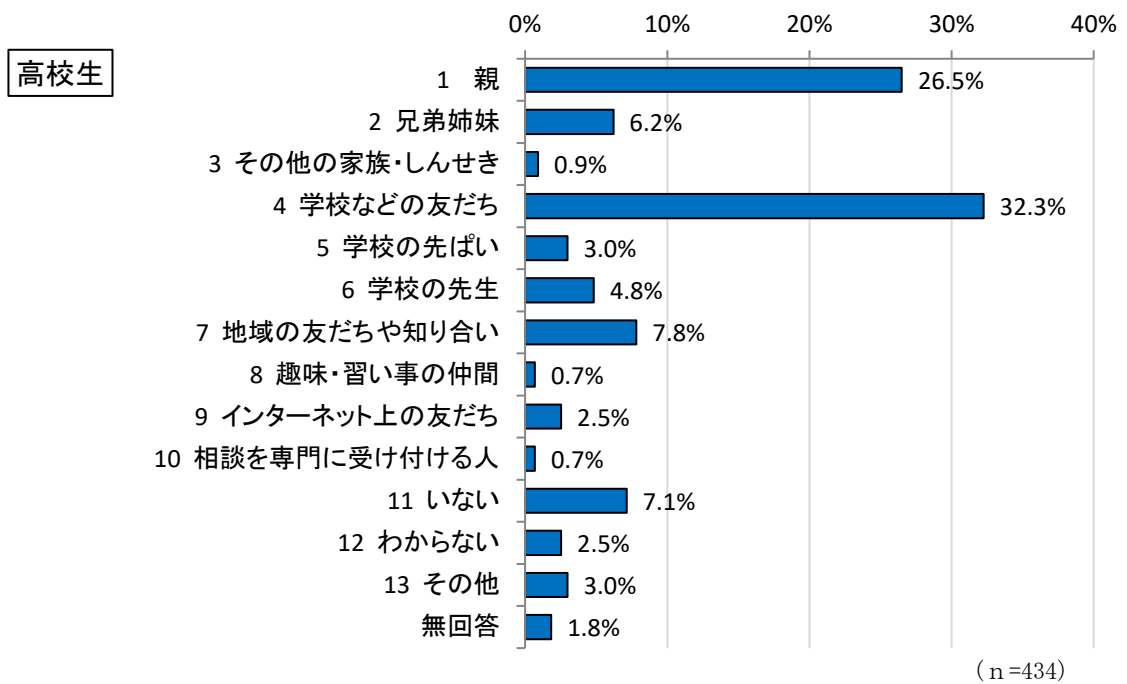


「親」が最も多く 32.3%、次いで「学校などの友達」が 23.6%、「学校の先生」が 8.4%となっています。

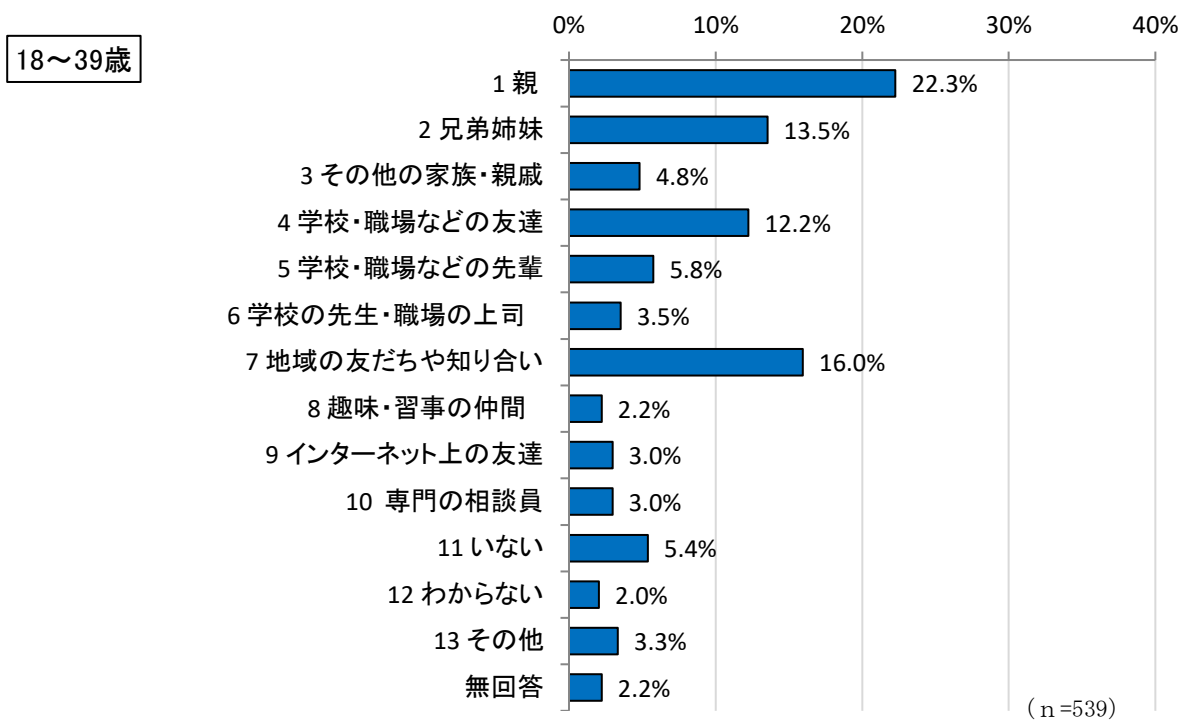
中学生



「学校などの友達」が最も多く 33.1%、次いで「親」が 27.2%、「兄弟姉妹」が 8.5%となっています。



「学校などの友達」が最も多く 32.3%、次いで「親」が 26.5%、「地域の友だちや知り合い」が 7.8%となっています。

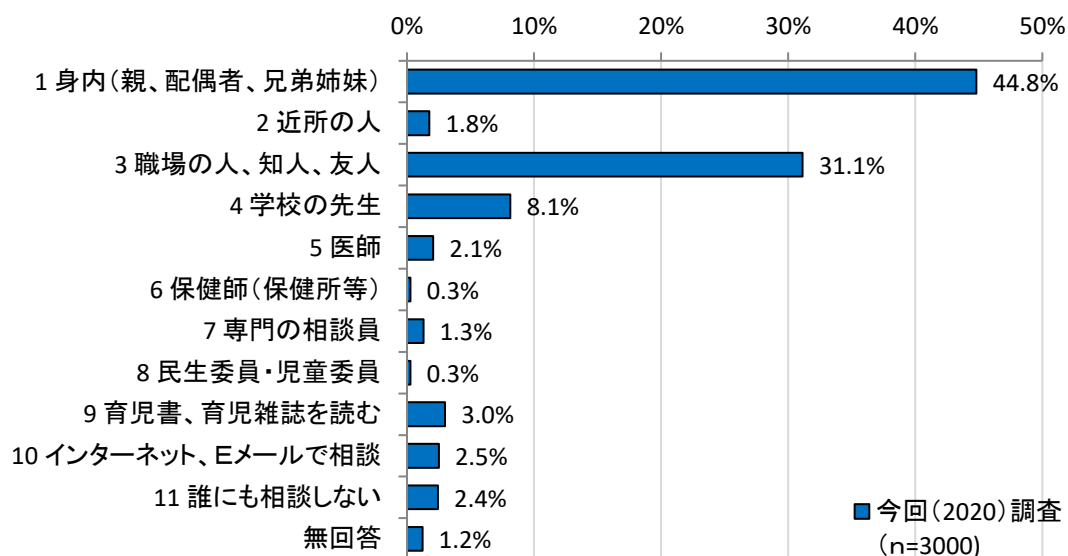


「親」が最も多く 22.3%、次いで「地域の友だちや知り合い」が 16.0%、「兄弟姉妹」が 13.5%となっています。

⑤ 子どもを取り巻く問題

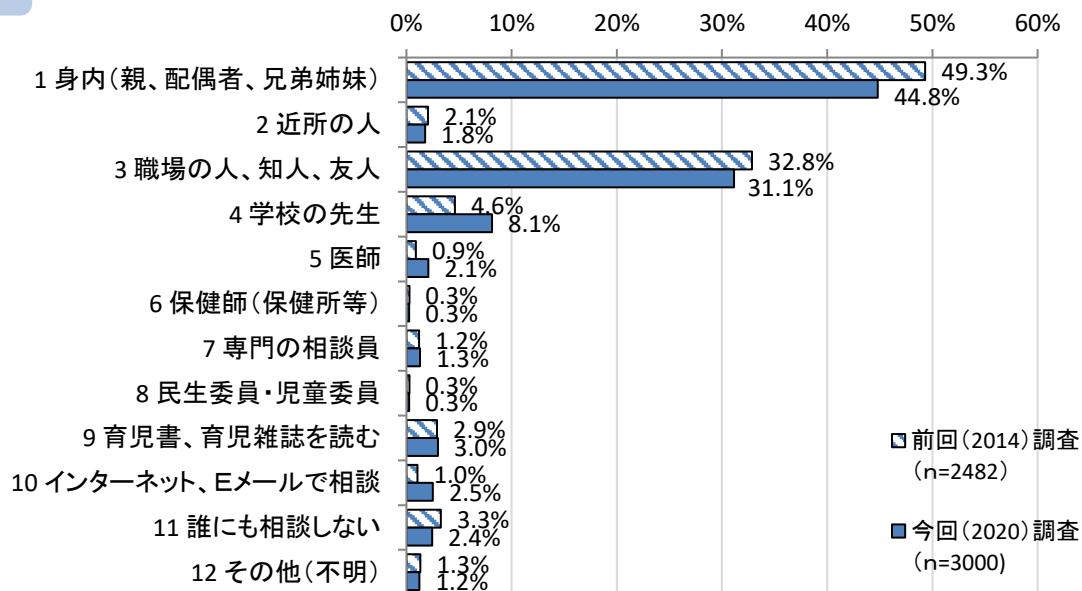
■ 子育ての悩み・心配の相談相手

子育てに関する悩みや不安などを、どなたに相談していますか。(保護者対象)【あてはまるすべてに○】



「身内(親、配偶者、兄弟姉妹)」が最も多く 44.8%、次いで「職場の人、知人、友人」が 31.1%、「学校の先生」が 8.1%となっています。

経年比較

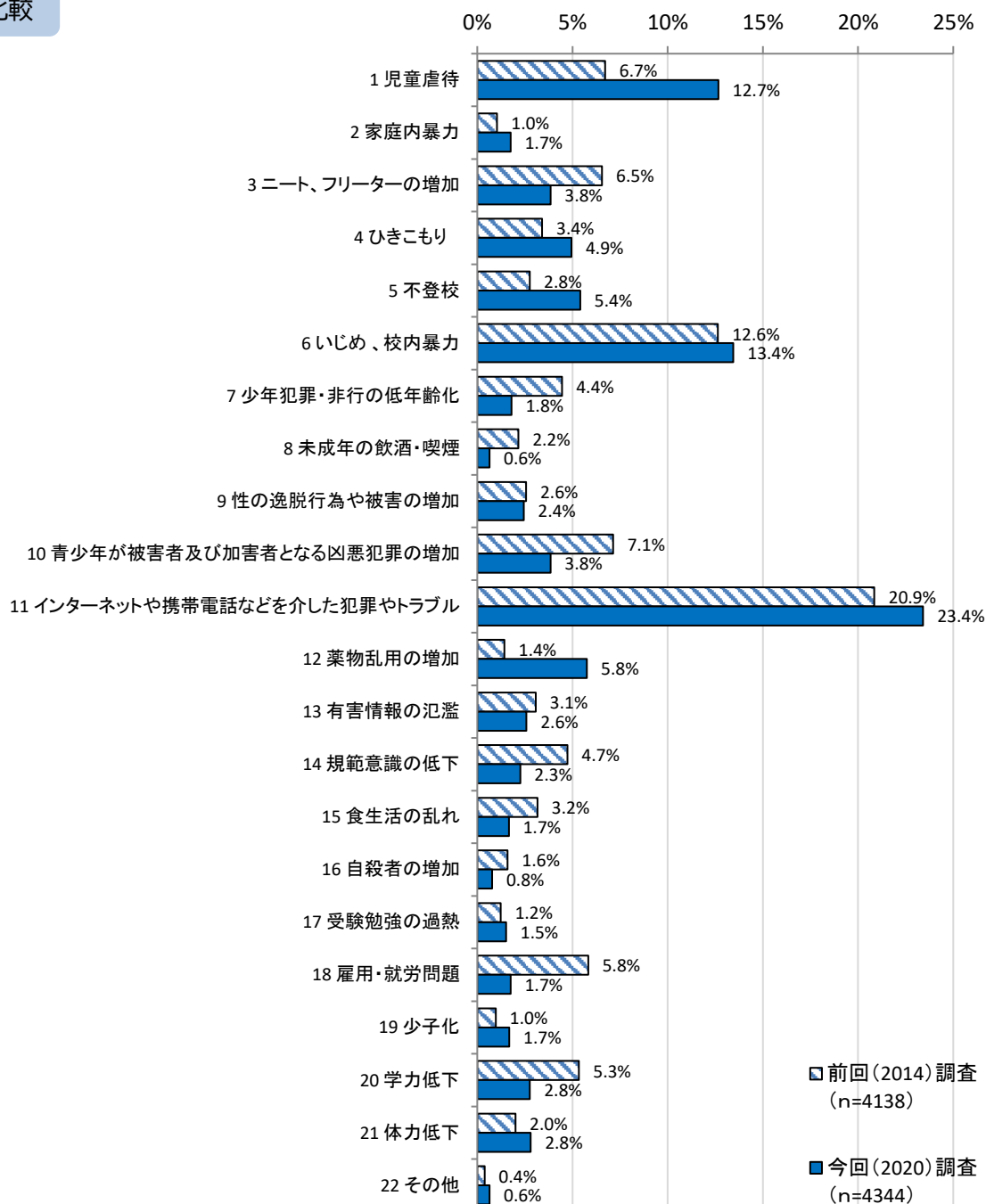


前回調査と比較すると、「学校の先生」、「医師」「インターネット、Eメールで相談」の割合が増加しています。一方、「身内(親、配偶者、兄弟姉妹)」、「職場の人、知人、友人」の割合は減少しています。

■ 関心のある問題

最近の子どもたちを取り巻く問題で関心のあることは何ですか。(保護者対象)【あてはまる3つまで○】

経年比較



「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」が最も多く 23.4%、次いで「いじめ、校内暴力」が 13.4%、「児童虐待」が 12.7%となっています。

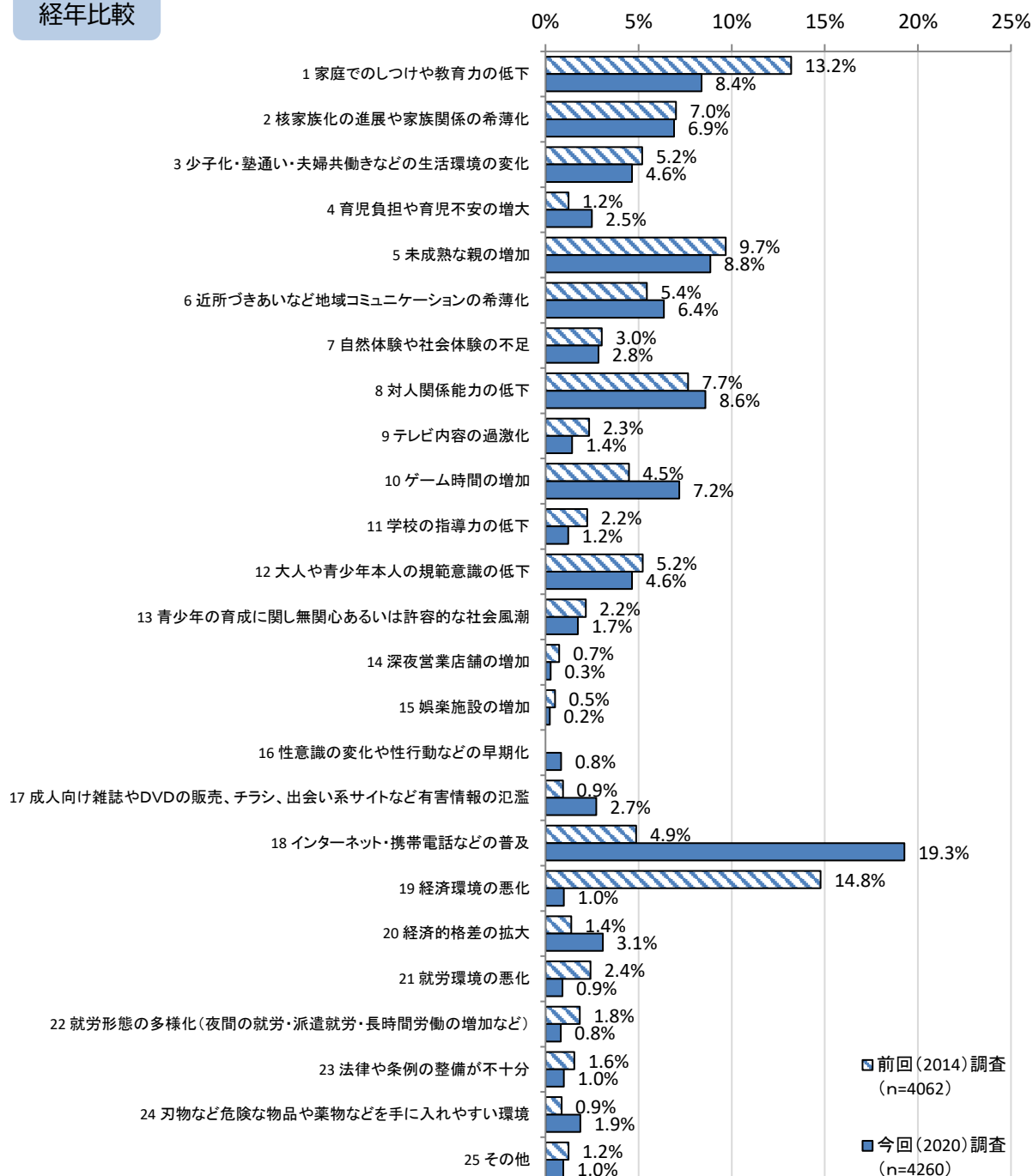
前回調査と比較すると、「児童虐待」、「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」「不登校」の割合が増加しています。一方、「ニート、フリーターの増加」、「青少年が被害者及び加害者となる凶悪犯罪の増加」、「雇用・就労問題」の割合は減少しています。

■ 問題の原因

最近の子どもたちを取り巻く問題について、原因は何だと思われますか。（保護者対象）

【あてはまる3つまで○】

経年比較



「インターネット・携帯電話などの普及」が最も多く 19.3%、次いで「未成熟な親の増加」が 8.8%、「対人関係能力の低下」が 8.6%となっています。

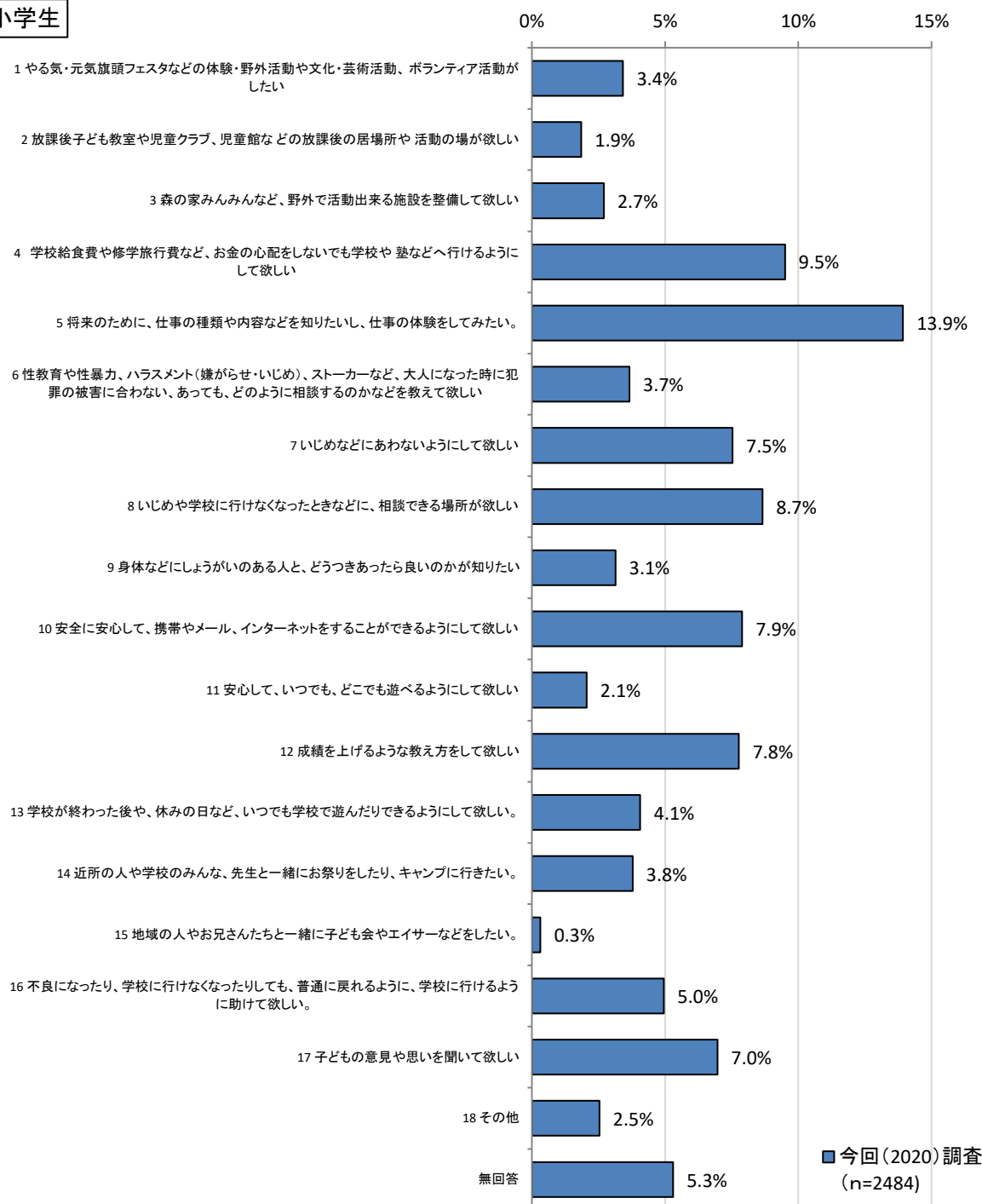
前回調査と比較すると、「インターネット・携帯電話などの普及」、「ゲーム時間の増加」の割合が増加しています。一方、「経済環境の悪化」、「家庭でのしつけや教育力の低下」の割合は減少しています。

⑥ 子どもを取り巻く問題への対策

■ 教えてもらいたい、やってみたいことなど

あなたは、現在、どのようなことを、詳しく教えてもらいたい、知りたい、やってみたい、また必要だと思いますか？【あてはまる3つまで○】

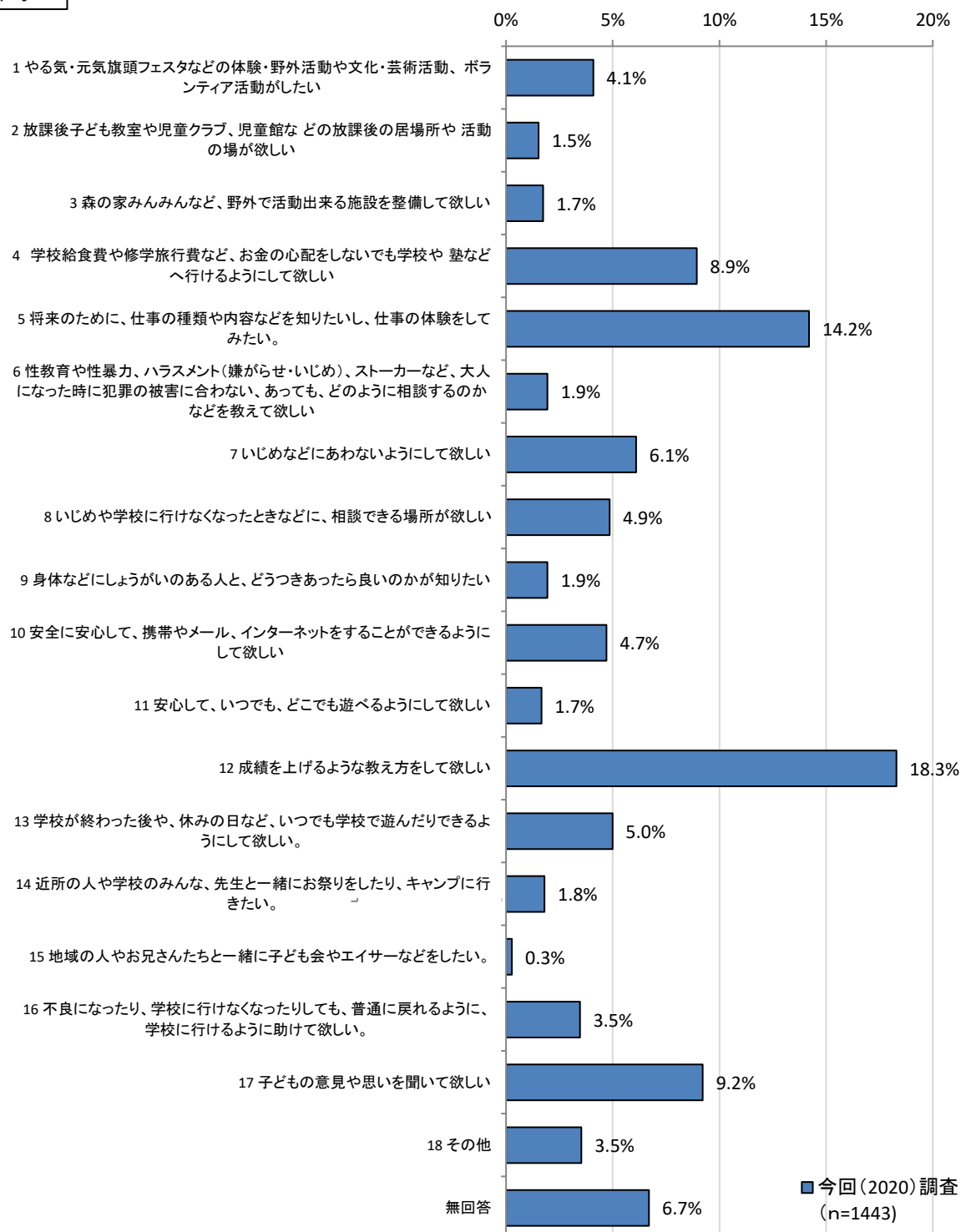
小学生



「将来のために、仕事の種類や内容などを知りたいし、仕事の体験をしてみたい」が最も多く13.9%、次いで「学校給食費や修学旅行費など、お金の心配をしないで学校や塾などへ行けるようにして欲しい」が9.5%、「いじめや学校に行けなくなったときなどに、相談できる場所が欲しい」が8.7%となっています。

あなたは、現在、どのようなことを、詳しく教えてもらいたい、知りたい、やってみたい、また必要だと思いますか？【あてはまる3つまで○】

中学生

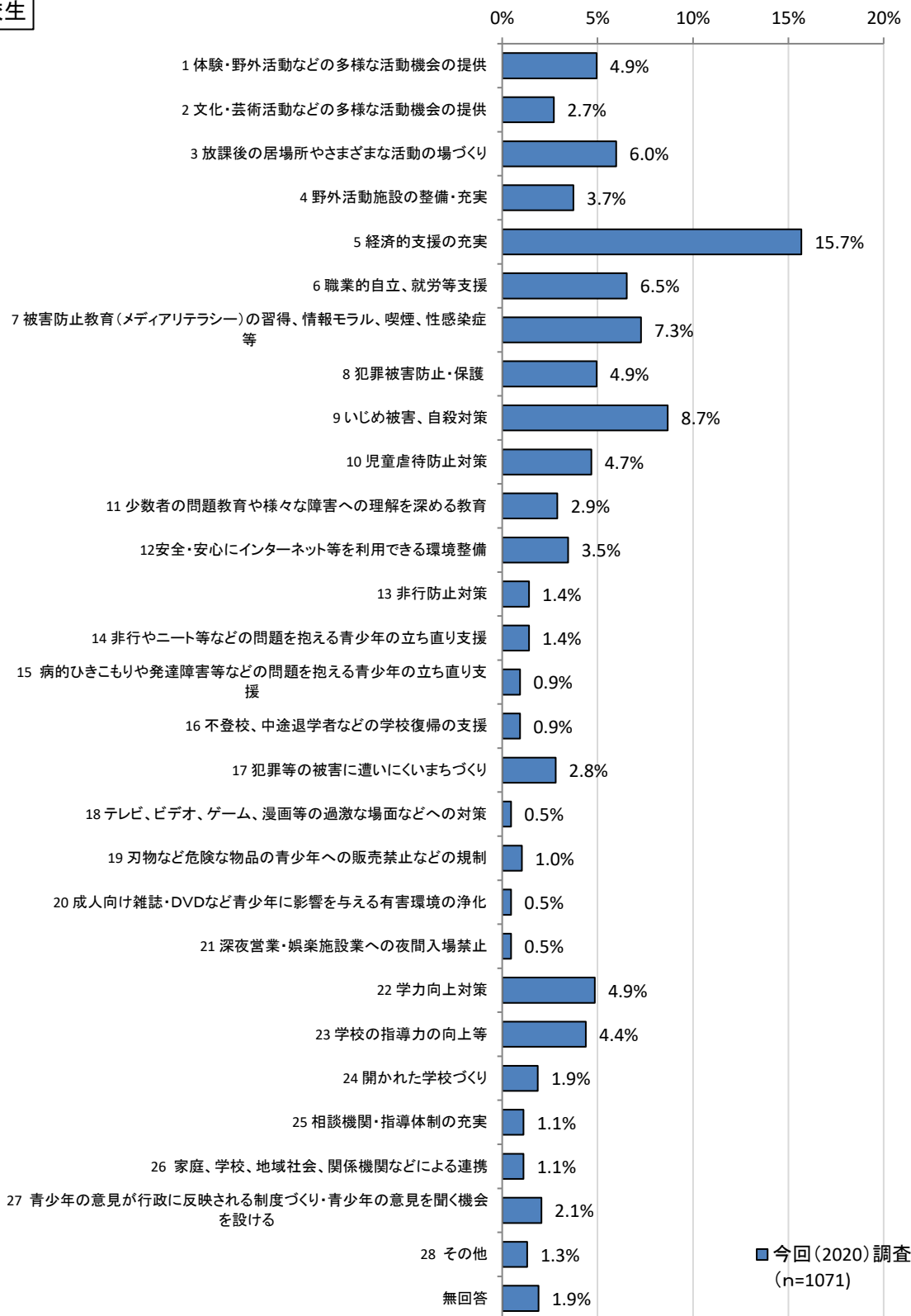


「成績を上げるような教え方をして欲しい」が最も多く 18.3%、次いで「将来のために、仕事の種類や内容などを知りたいし、仕事の体験をしてみたい」が 14.2%、「子どもの意見や思いを聞いて欲しい」が 9.2%となっています。

■ 楽しく安心な暮らしに必要なこと

あなたが楽しく安心して暮らすには、何が必要だと思いますか。【あてはまる3つまで○】

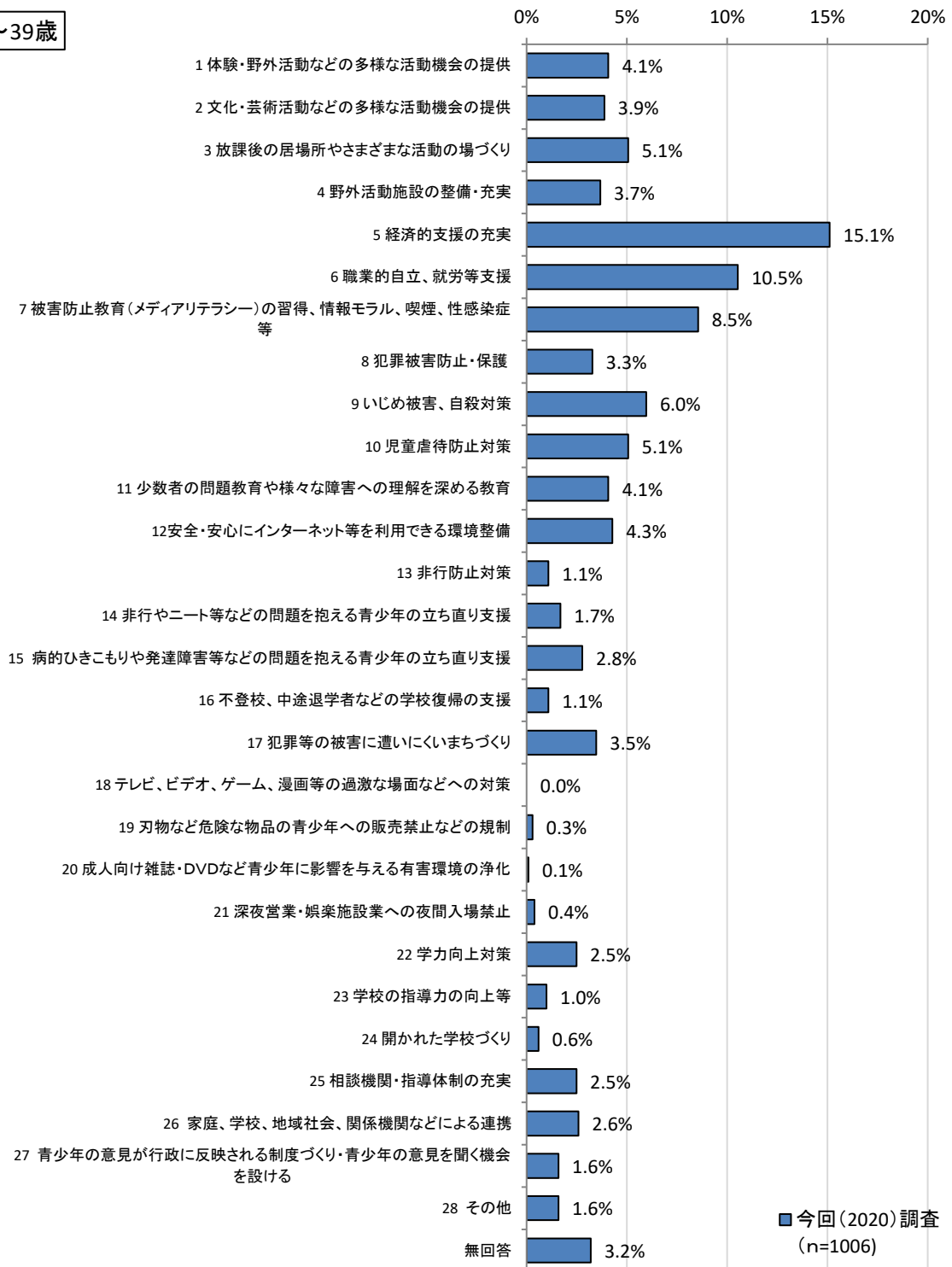
高校生



「経済的支援の充実」が最も多く 15.7%、次いで「いじめ被害、自殺対策」が 8.7%、「被害防止教育（メディアリテラシー）の習得、情報モラル、喫煙、性感染症等」が 7.3%となっています。

あなたが楽しく安心して暮らすには、何が必要だと思いますか。【あてはまる3つまで○】

18～39歳

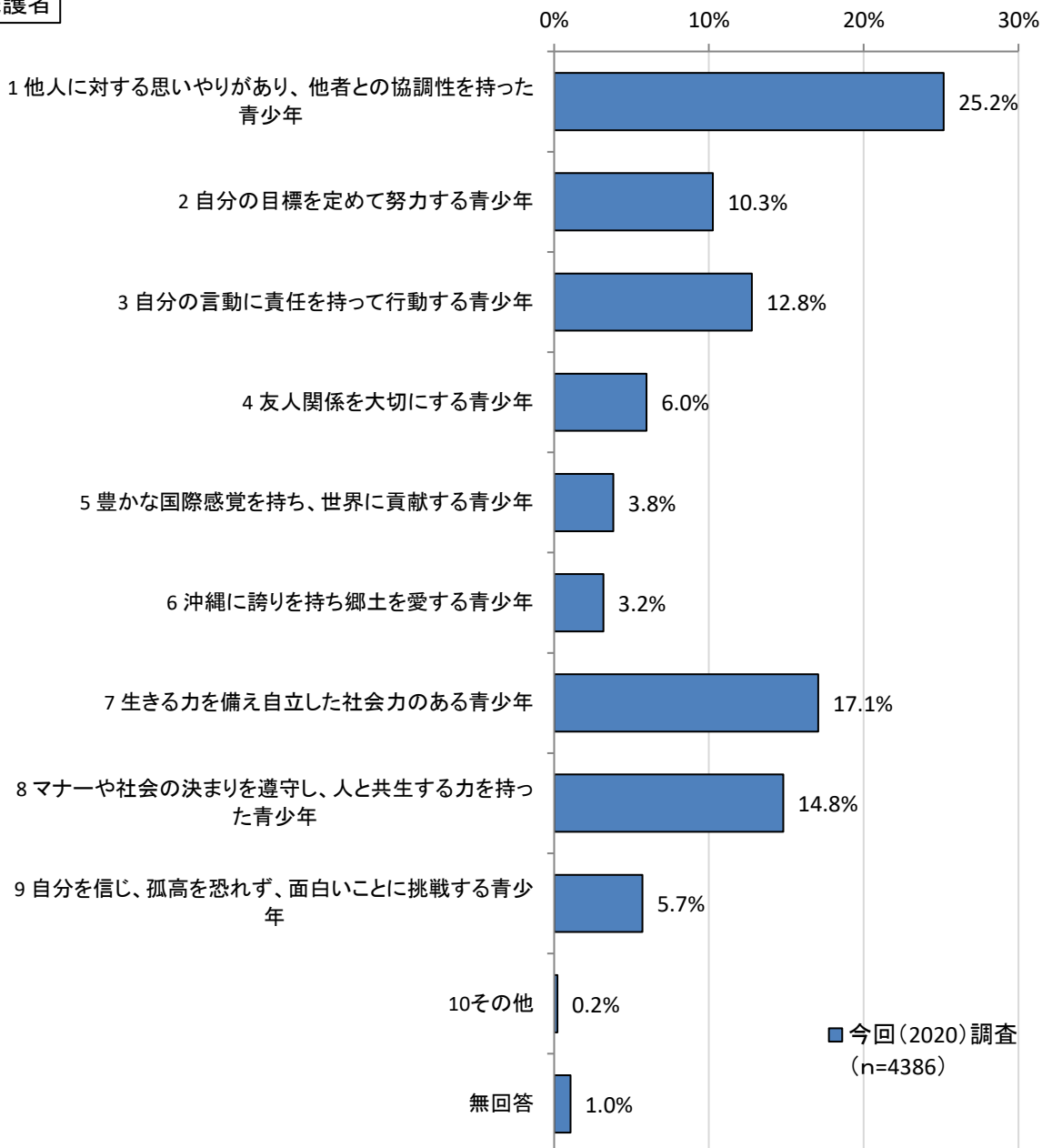


「経済的支援の充実」が最も多く 15.1%、次いで「職業的自立、就労等支援」が 10.5%、「被害防止教育（メディアリテラシー）の習得、情報モラル、喫煙、性感染症等」が 8.5%となっています。

■ 望ましい青少年像

次代を担う青少年像として特に望ましいと思われるものはありますか。(保護者対象)
【あてはまる3つまで○】

保護者

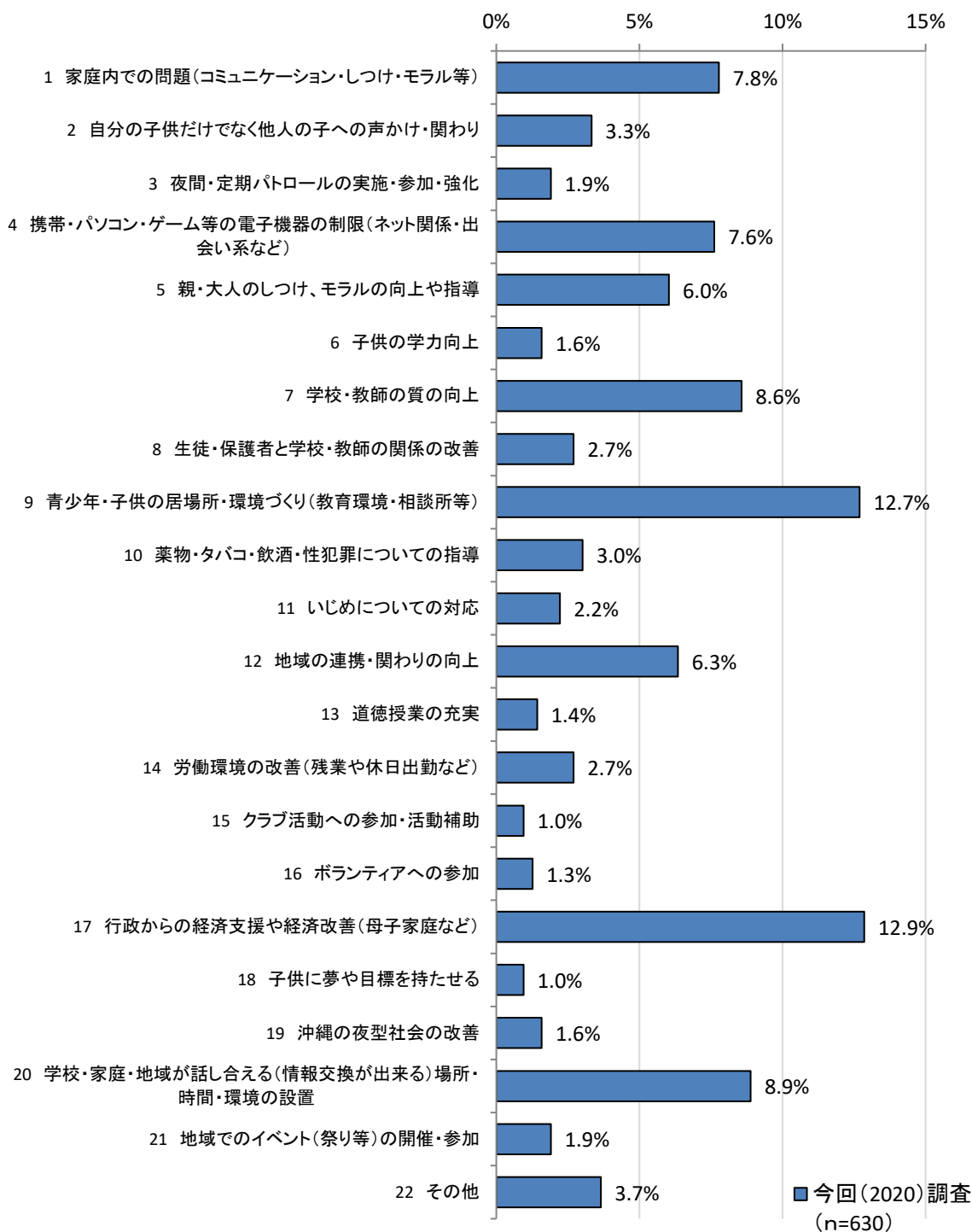


「他人に対する思いやりがあり、他者との協調性を持った青少年」が最も多く 25.2%、次いで「生きる力を備え自立した社会力のある青少年」が 17.1%、「マナーや社会の決まりを遵守し、人と共生する力を持った青少年」が 14.8%となっています。

■ 青少年問題に必要な対策

那覇市の青少年の諸問題に取り組むためには、どのような対策が必要と思われますか。
あなたの考えることを□の中に記入して下さい。（保護者対象）

※自由記述による回答内容を類似しているカテゴリー（選択肢）で分類

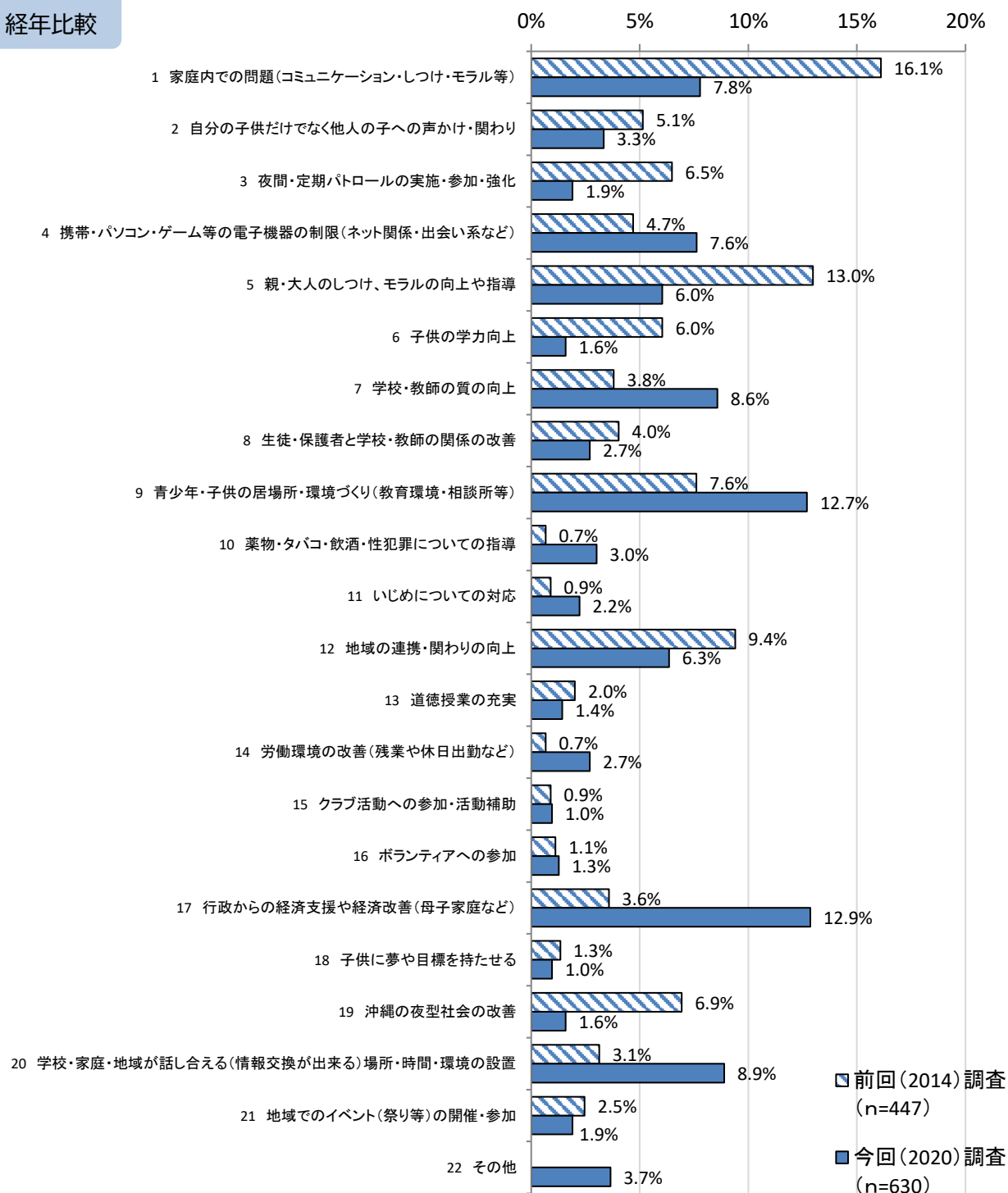


「行政からの経済支援や経済改善（母子家庭など）」が最も多く 12.9%、次いで「青少年・子供の居場所・環境づくり（教育環境・相談所等）」が 12.7%、「学校・家庭・地域が話し合える（情報交換が出来る）場所・時間・環境の設置」が 8.9%となっています。

那覇市の青少年の諸問題に取り組むためには、どのような対策が必要と思われますか。
あなたの考えることを□の中に記入して下さい。（保護者対象）

※自由記述による回答内容を類似しているカテゴリー（選択肢）で分類

経年比較

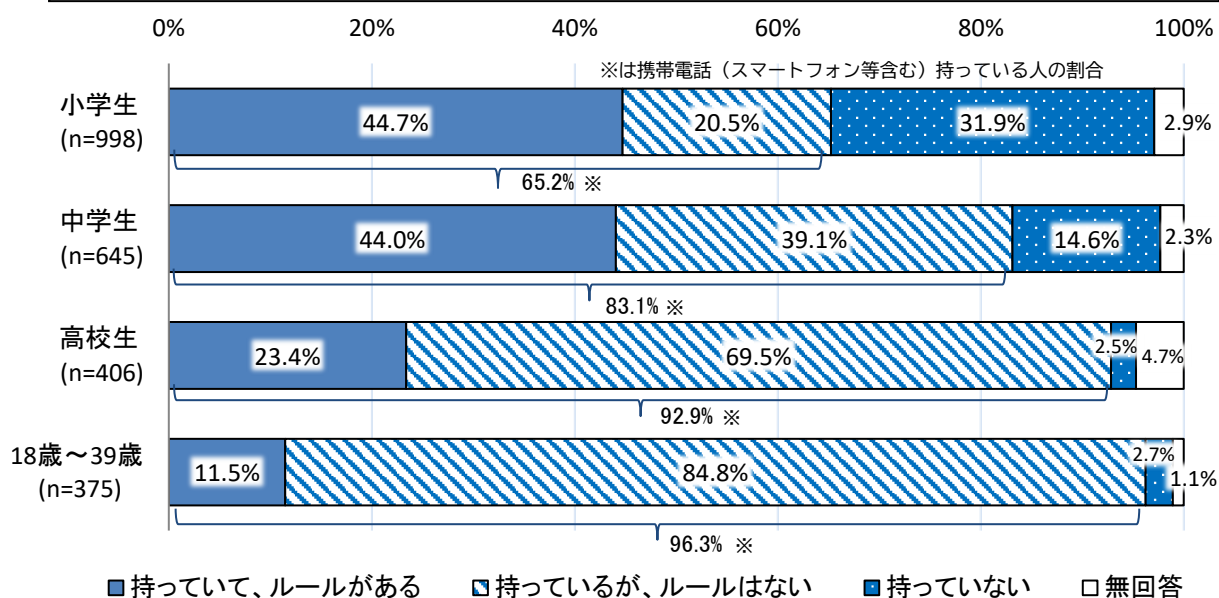


前回調査と比較すると、「行政からの経済支援や経済改善（母子家庭など）」、「青少年・子供の居場所・環境づくり（教育環境・相談所等）」の割合が増加しています。一方、「家庭内での問題（コミュニケーション・しつけ・モラル等）」、「親・大人のしつけ、モラルの向上や指導」の割合は減少しています。

⑦ 携帯電話・インターネット・SNS 等について

■ 携帯電話（スマートフォン）の使用

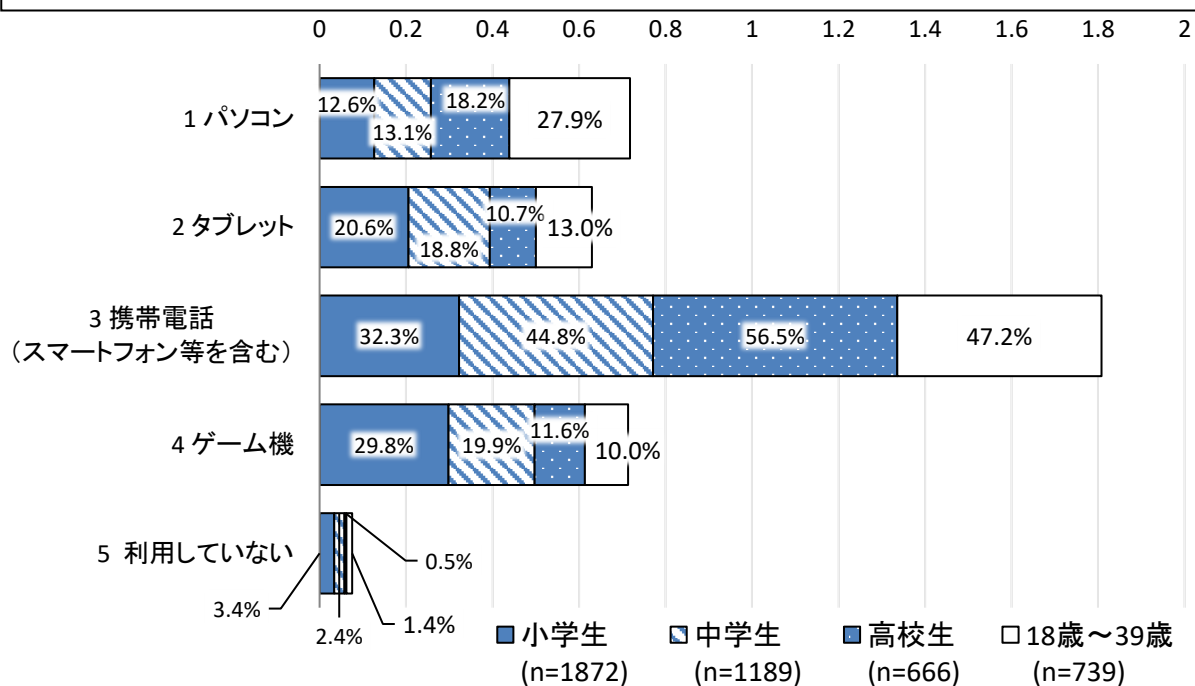
あなたは、携帯電話（スマートフォン等を含む）を持っていますか。
また、家族でルールを決めていますか。【あてはまる 1 つに○】



「持っていて、ルールがある」と回答した割合は、小学生が最も多く 44.7%、次いで、中学生が 44.0%、高校生が 23.4%となっています。

■ インターネットの使用

あなたは、どんなインターネット機器を利用していますか。【あてはまるすべてに○】

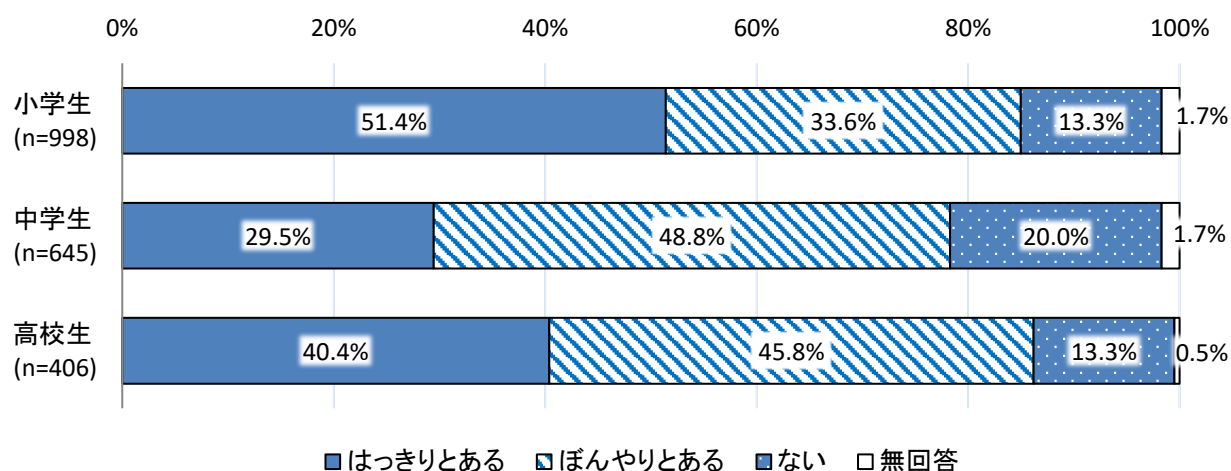


どの世代ともに「携帯電話（スマートフォン等を含む）」の割合が最も多く、次いで「パソコン」、「ゲーム機」となっています。

⑧ 就労について

■ 将来就きたい職業

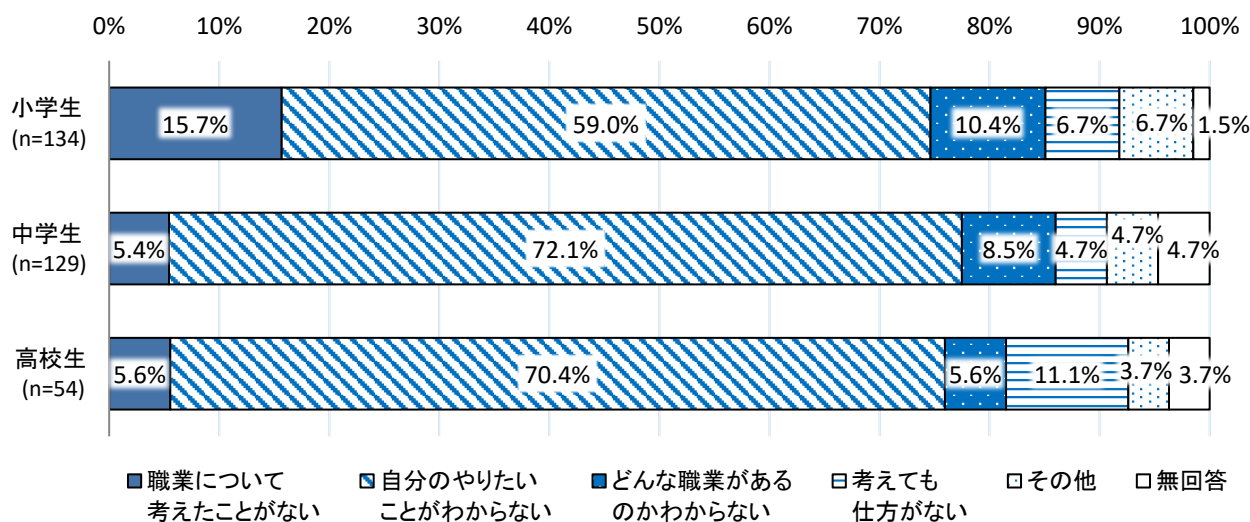
あなたは、将来就きたい職業がありますか。【あてはまる1つに○】



「はっきりとある」と回答した割合が最も高いのが小学生で51.4%、次いで高校生が40.4%、中学生が29.5%となっています。

■ 就きたい職業がない理由

就きたい職業がない理由はなぜですか。【あてはまる1つに○】

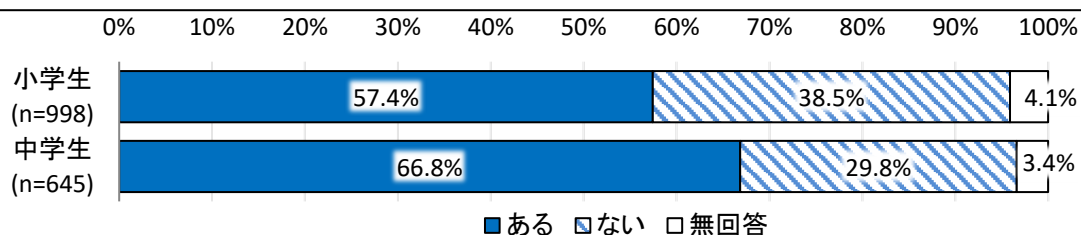


どの世代とも「自分のやりたいことがわからない」の割合が最も多くなっています。次いで小学生では「職業について考えたことがない」、中学生では「どんな職業があるのかわからない」、高校生では「考えても仕方がない」が多くなっています。

⑨ 海外や異文化への関心

■ 海外や異文化への関心

あなたは、海外や異文化との関わり方について関心がありますか。【あてはまる 1 つに○】

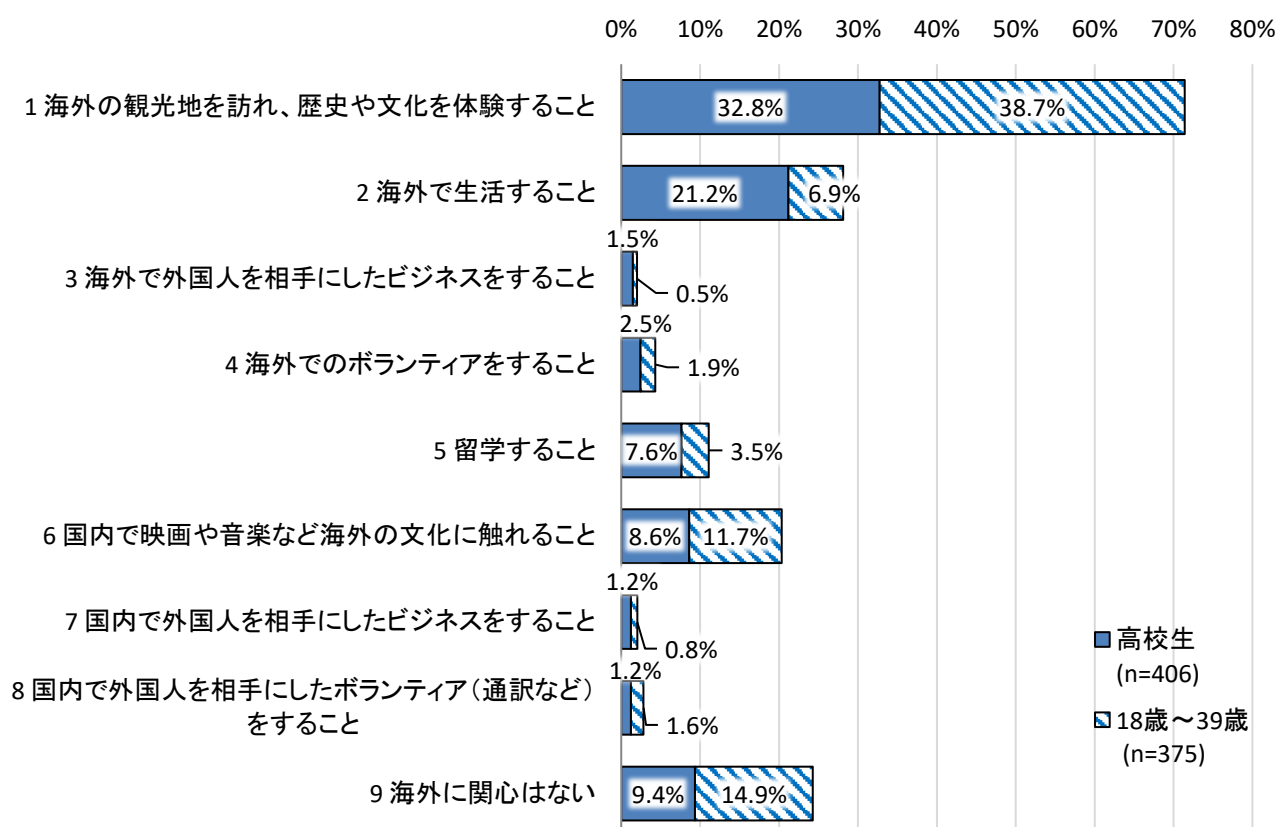


海外や異文化へ関心が「ある」と回答した割合は、小学生で 57.4%、中学生で 66.8%と、ともに過半数を超えています。

■ 海外や異文化への関わり方

あなたは、海外や異文化との関わり方についてどのようなことに関心がありますか。

【あてはまる 1 つに○】



高校生は「海外の観光地を訪れ、歴史や文化を体験すること」が最も多く 32.8%、次いで「海外で生活すること」が 21.2%、「海外に関心はない」が 9.4%となっています。

18～39 歳は「海外の観光地を訪れ、歴史や文化を体験すること」が最も多く 38.7%、次いで「海外に関心はない」が 14.9%、「国内で映画や音楽など海外の文化に触れること」が 11.7%となっています。